



# 三愛病院 / 老人保健施設 あうん高知

## 三愛病院

院長挨拶 .....	137
概 要 .....	138
部署責任者一覧 .....	139
医師一覧 .....	139
職員数一覧 .....	139
年次報告 .....	140
診療部 .....	140
看護部 .....	146
医療技術部 .....	150
事務部 .....	156
在宅部 .....	158

## 老人保健施設 あうん高知

概 要 .....	162
年次報告 .....	162
入所 .....	162
通所リハビリテーション デイケア・ファイト .....	163

## 三愛病院 / 老人保健施設 あうん高知

委員会 .....	165
診療実績・業務実績統計 .....	170
院内発表会 .....	178
業績一覧 .....	179
実習・研修生 .....	180



深田 順一



三愛病院・あうん高知を中心として、一宮地区での地域医療活動を、その中心となって担うべく、しっかり貢献してゆきたいと頑張ってきました「三愛病院グループ」にとって、平成30年度は、我々が目指す、地域の方々にとっての、よりよい「かかりつけ病院」に向けて、当面、何をしなければならないかを明確にできた1年ではなかったか、と考えています。

三愛病院グループの活動を支える構造面では、まず、診療スタッフの今後に向けての充実の必要性が明らかになりました。医療は常に進歩し続けているわけですが、最近の流れは最新の医学の臨床応用という面に加え、確立された医療レベルをいかにいきわたらせるかという、医療にとっての標準化、というふたつの側面があるわけですが、情報化社会の今日、患者さんやそのご家族も健康・医療には大きな関心をお持ちで、新しい流れには敏感だ、と感じています。一宮地区には近々、医療モールの進出があると聞いていますし、三愛グループとしても、今後とも、「選ばれる医療機関」であり続けるためには、このような世の中の流れを眺みつつ、何よりも、スタッフのより一層の充実を図らねば、と考えております。医療は人です。そしてそのためには、スタッフにとって魅力ある職場、職員が認められ、評価される職場、友人・後輩を誘える職場にしていかなければ、と思っております。

業務面では、私は当院に着任以来、最も力を入れているのが、院内の業務手順書の見直しによる日常業務の安定化と、万が一の場合にすみやかに対応できる、南海トラフ地震を念頭に置いた病院事業継続計画（BCP）の作り上げです。このうち後者の、南海トラフ地震を念頭に置いた病院事業継続計画は、平成30年12月の本院グループの忘年会の席で、発災から院内災害対策本部が立ち上がるまでの、我々のいう「フェーズ0（ゼロ）」期における院内手順・体制をまとめ切りました。半年余り、この作成に携わったワーキンググループWGはここで解散し、翌月からはフェーズ0に続くフェーズ1に当たる急性期に対応する院内手順と体制につき、本部機能・救護病院機能・在宅関連機能に関する3つのWGを立ち上げ、2019年9月1日の防災の日の完成に向けて、内容の調整に入りました。来年度には、これらに基づいた訓練に、何らかの形で取り組みたいと考えています。ただ前者については、本年度、薬剤、医療安全、医事業務改善などの分野でWGを組んでの手順書作成に取り組み始めたのですが、業務の流れとして、これらが定着するまでには至っていない、と感じています。しかし諦めず、何とか職員の理解・協力を得て、職場文化にまで高めていきたい、と考えています。

平成31（2019）年度には、三愛病院は愛3病棟の介護医療院への転換、地域包括ケア病棟の導入という大きな変化の節目を迎えます。令和2（2020）年に予定されている次の診療報酬制度の改定への情報などにも気をつけながら、間違いのない対応をしたい、と思っております。



三愛病院



老人保健施設 あうん高知



グループホームいろは丸と  
デイサービスいろは

細木病院

細木ユニテイ病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

# 概要

## 1. 理念・基本方針

### 仁生会憲章（三愛病院理念）

- 1) 私達は 限りない愛情と責任をもって 常に最善をつくします
- 2) 私達は 自己研鑽にはげみ 人々から愛される病院づくりを目指します
- 3) 私達は 常に和を大切に職場の規律を守り 病院の健全な発展に努めます

### 三愛病院の基本方針

私たちは、仁生会憲章に基づき、安全で適正な質の高い医療および療養環境を提供します。  
また、最新の保健医療動向に取り組み、健康増進・予防対策の観点から、地域ニーズに適切適時対応します。  
さらに、地域の声を医療活動に反映させていきます。

### 患者さまの権利5カ条

三愛病院のすべての患者さまは、以下の5カ条の権利を有します。

- 1) 良質の医療を継続して受ける権利
- 2) 治療に関して、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
- 3) 十分な説明を受け、自らの治療を選ぶ権利
- 4) 意識のレベルに関わらず、尊厳を守られる権利
- 5) 個人情報保護される権利

## 2. 施設とその内容

### ①施設面積、建物面積

敷地面積：3,877.69㎡ 建物面積：1,559.73㎡

### ②施設の内容（各階の目的、機能別）

4 F	愛3病棟 介護療養型病床
3 F	愛2病棟 障害者施設等入院基本料 10対1 特殊疾患入院施設管理加算
2 F	愛1病棟 障害者施設等入院基本料 10対1 特殊疾患入院施設管理加算
1 F	外来診療部門、医療技術部門、事務部門

## 3. 標榜科目

内科、小児科、耳鼻咽喉科、整形外科、総合診療科・外科、皮膚科、泌尿器科、形成外科、婦人科、精神科、循環器科、放射線科、訪問診療科、リハビリテーション科

## 4. 許可病床数

146床 愛1病棟 53床 愛2病棟 45床 愛3病棟 48床

## 部署責任者一覧

平成31年 3月31日現在

院長	深田 順一
副院長	坂本 賢司
診療部	
医局長	橋詰 稔
内科科長	中川 治
放射線科科長	岩井 智郎
総合診療科科長	武市 牧子
泌尿器科科長	山本 志雄
看護部	
看護部長	元吉 ひとみ
愛1病棟看護師長	戸田 里子
愛2病棟看護師長	谷山 智砂
愛3病棟看護師長	中平 好昭
外来看護師長	濱名 郁里
在宅部	
居宅介護支援事業所「一宮」主任	和田 真樹
ホームヘルプステーション高知主任	野町 喜代
グループホームいろは丸主任	森岡 明美
デイサービスいろは主任	竹口 伸也
高知市北部地域高齢者支援センターいっく出張所担当	川添 香織

介護老人保健施設あうん高知	
施設長	細木 秀美
副施設長	小松 雅理
入所主任	嶋崎 由季
入所主任	猪崎 優子
入所主任	森中 美緒
通所主任	三浦 恵子
医療技術部	
薬剤室室長	小野 正英
放射線室主任	廣田 任成
臨床検査室室長	栄田 美智子
リハビリテーション課課長	門脇 貴代
理学療法室主任	濱田 くるみ
作業療法室主任	竹倉 佐和子
言語聴覚療法室主任	谷口 桃子
栄養管理室主任	石山 由香
医療相談室主任	澤田 恵里
事務部	
事務部長	植田 宏平
事務部副部長	竹垣 康幸
総務課主任	鳴瀧 有人
総務課主任	小松 美紀
総務課主任	小川 歩美
医事課副部長	大藤 幸一

## 医師一覧

平成31年 3月31日現在

内科	細木 秀美	
	深田 順一	
	坂本 賢司	
	中川 治	
	小野寺 真智	
	上岡 悦子 (非常勤)	
	岩崎 泰正 (非常勤)	
	上村 千鶴子 (非常勤)	
	水田 順也 (非常勤)	
	小笠原 真沙実 (非常勤)	
	小笠原 史也 (非常勤)	
	高崎 元樹 (非常勤)	
	小児科	橋詰 稔
		石原 正行 (非常勤)
浦木 諒 (非常勤)		

耳鼻咽喉科	市川 利恵
	青井 二郎 (非常勤)
	吉田 真夏 (非常勤)
	梶山 泰平 (非常勤)
	葛目 雅弓 (非常勤)
	岩井 智郎
	形成外科
婦人科	相良 祐輔 (非常勤)
皮膚科	池田 光徳 (非常勤)
整形外科	森田 穰二 (非常勤)
	岡上 裕介 (非常勤)
	泉 仁 (非常勤)
	五十嵐 陽一 (非常勤)
不眠外来	須賀 楓介 (非常勤)
もの忘れ外来	上村 直人 (非常勤)
総合診療科	武市 牧子
泌尿器科	山本 志雄
循環器科	渡橋 和政 (非常勤)
訪問診療科	大河原 知治 (非常勤)

## 職員数一覧

平成31年 3月31日現在

医師	14	臨床検査技師	3	事務員	30
看護師	78	理学療法士	13	技能員	6
准看護師	17	作業療法士	5	薬剤助手	1
看護補助者	29	言語聴覚士	6	理学療法助手	2
介護福祉士	70	ソーシャルワーカー	7	保育士	2
薬剤師	4	社会福祉士	2		
診療放射線技師	2	管理栄養士	4		
				計	295

細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

## 診療部



## ● 内 科

### ①活動内容・目標に対する達成状況

1. 内科系スタッフでは、年度当初に、前年度より1年間の予定で弘前大学から高知大学医学部に内地留学され、その間、本院の診療に加わっていた綿貫医師が、無事、研究予定を終わられ、母校に復職されるということで高知を離れられ、その後の医師補充に至らなかったため、前年度に比べ、1名減ということになった。内科系の診療としては、外来診療に関しては、引き続き高知大学医学部の医局からのご支援がいただいている。その結果、糖尿病・内分泌内科のほか、一般内科、消化器内科については、昨年同様の診療レベルが維持できており、呼吸器疾患に対しても、引き続き高知大学の呼吸器・感染症内科からの支援が得られている。循環器領域では前年度後半の1月から高知大学医学部教授で心臓血管外科を専門とされる渡橋和政先生による循環器外来が、月1回のペースで続いており、心不全・不整脈などの診療面で心強い限りである。このほかの専門外来としては、内視鏡外来のほか、肥満外来、禁煙外来、漢方外来が維持できている。この結果、内科系の年間延べ患者数は前年度の99%のレベルと横ばいの状態であり、年間延べ17,000人台が維持できている。加えて前年度から始まっている訪問診療が週1回のペースで維持できており、大河原医師と外来スタッフにより、月平均10名足らずの患者さん宅への診療サービスの提供ができています。
2. 入院診療では病棟構成の基本構造は今年度も変わりなく、愛1病棟53床、愛2病棟45床は障害者施設

等一般病床として、愛3病棟48床は介護療養型病床として運用した。入院患者さんに対する診療内容には、これまでと特に変わった点はなく、1人1日の診療単価は22,008円と前年比+0.3%であったが、入院患者数の面で年間を通しての平均病床稼働率が84.7%と前年比-3.1%であり、総合診療科の武市医師の参加が得られたとはいえ、綿貫医師の抜けた穴を埋めるまでには至らなかった。

### ②今後の課題

平成30年度は法人としての仁生会が、その将来計画、あるいは中期計画を議論し、まとめ上げた年度であったともいえる。この中で三愛病院グループとしては、将来像、特に、将来の需要に向けての病棟再編への方向性を明らかにしていただいたことは大きかった。具体的には地域包括ケア病棟の導入と介護療養型病床部分の介護医療院への転換に向けての流れであり、内科系診療も、それにあった中身に転換していく必要がある。病棟の形の変化に対応する、いや、むしろそれをリードする診療スタッフの力量の向上・発展を図りつつ、今後も診療体制の改善・充実に努めていきたいと考えている。

### ③常勤医師の氏名

深田 順一  
坂本 賢司  
中川 治  
小野寺 真智

#### 4 非常勤医師の氏名

細木 秀美  
上岡 悦子（～平成31年3月31日）  
上村 千鶴子  
高知大学医学部 派遣医師  
岩崎 泰正  
大河原 知治（平成29年5月13日～）

小笠原 真沙美（平成29年4月1日～）  
小笠原 史也（平成29年4月1日～）  
渡橋 和政（平成30年1月27日～）  
水田 順也（平成30年4月1日～）  
高崎 元樹（平成30年4月1日～）

（文責：院長 深田 順一）

## ● 小児科

### 1 活動内容・目標に対する達成状況

一次診療、地域診療を中心とした外来診療を継続している。

平成30年度の患者数は昨年度比10.2%減であった。インフルエンザの流行は例年通りで総数はほぼ前年どおりである。

小児保健関連では、地域の保育園健診（一宮保育園、東山保育園、あゆみ保育園）、幼稚園健診（一宮幼稚園）、小学校健診（一宮小学校）と、赤ちゃん会に参加した。病後児保育はやや減少傾向である。また、高知市医師会の夜間休日時間外診療にも参加している。

### 2 今後の課題

患者数に関しては、近隣小児科、内科の再開により

減少となった。地域の子ども数は7、8年位前から減少している。地域外の患者獲得と、予防接種、乳児健診などの小児保健領域の充実が必要と考える。

### 3 常勤医師の氏名

橋詰 稔

### 4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師  
石原 正行（～平成31年3月31日）  
北村 祐介（～平成30年6月26日）  
浦木 諒（平成30年7月3日～）

（文責：医局長 橋詰 稔）

## ● 耳鼻咽喉科

### 1 活動内容・目標に対する達成状況

- 耳鼻咽喉科一般外来を行っている。今年は昨年と比べてスギ花粉が多く飛散し、2月の患者数が多く、延べ患者数は109%とやや増加している。
- 平成27年に開始した補聴器外来では、延べ患者数は136名で、昨年と比べて144%と増加している。外来として周知されてきたと思われる。

### 2 今後の課題

- 小児患者では、中耳炎・鼻炎・副鼻腔炎などの感染症がほとんどである。成人患者では、難聴・めまい・鼻出血・副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎・咽喉頭異常感・睡眠時無呼吸など多彩な症状で受診されている。引き続き感染症のコントロールにも注意しつつ、多彩な疾患にも対応し、手術適応がある場合やリスクが高い場合には、迅速に他院への紹介を検討したい。
- 補聴器外来を含め、外来患者のニーズに応えられ

るように、今後も努めたい。

### 3 常勤医師の氏名

市川 利恵

### 4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師  
池永 弘之（～平成30年4月30日）  
青井 二郎（平成30年4月1日～）  
梶山 泰平  
（平成30年5月1日～平成31年3月31日）  
吉田 真夏  
（平成30年5月1日～平成31年3月31日）  
山川 泰幸（平成30年5月1日～9月30日）  
長尾 明日香（平成30年10月1日～11月30日）  
葛目 雅弓（平成30年12月1日～）

（文責：常勤医師 市川 利恵）

## ● 整形外科

### ①活動内容・目標に対する達成状況

外来診療は、毎日午前中で月、火、土は高知大学医学部整形外科教室よりの派遣医師が交代で、水、木、金は森田穰二が担当している。地域医療に十分貢献できているか心配な点もある。

### ②今後の課題

入院を要する高齢者が来院された際の対応に苦心する際は、いつも「本店」のお世話になっている。

### ③常勤医師の氏名

なし

### ④非常勤医師の氏名

森田 穰二  
高知大学医学部 派遣医師  
岡上 裕介（～平成31年3月31日）  
泉 仁  
五十嵐 陽一（～平成31年3月31日）

（文責：非常勤医師 森田 穰二）

## ● 総合診療科・外科

### ①活動内容・目標に対する達成状況

総合診療科は、複数の科にまたがる疾患や、どこに相談したらいいのかといった疾患を取り扱う科であり、また、同時に外科外来を再開した。外来では地域での口コミのためか、外傷手術がかなり増加してきた。皮膚科関係の相談や、下肢血管での相談も増えてきた。院内では胃ろうカテーテル、気管カニューレの交換や、軽症から皮膚移植にいたるまでの、皮膚科処置や、皮膚感染症処置や、IVH、救急処置などを行っている。今後はなお、皮膚疾患、外科疾患を中心に受け入れをより増やしていきたい。

### ②今後の課題

三愛病院で外科が再開されたことの地域への周知は口コミで増えてきたとはいえ、まだまだ、周知されていないところもあり、広報活動により期待できる部分である。事実、治療を受けた人からの紹介での来院が増加傾向である。期限がみえてきた病棟転換を考えて

も、高知の主たる機関病院からの紹介を受けることのできる病院として認知される努力を行いたい。そのためにも、上部のみならず、下部消化管検査の導入により、術前、術後を任される病院となるべく成長させたい。救急外傷や、イレウスへの対処、局所麻酔下でできるあらゆる手術件数を増加させ、また、自身の阪神大震災の経験も、この病院の糧となるべくスタッフと共有し、今後の起こると推察される災害にも対処可能な基礎をつくっていきたい。

### ③常勤医師の氏名

武市 牧子

### ④非常勤医師の氏名

山崎 信保（外科）

（文責：総合診療科・外科科長 武市 牧子）

## ● 皮膚科

### ①活動内容

土曜日の午前中に、外来診療を行っている。月あたりの開設回数は2～4回程度である。予約枠を36設定して、患者さんの便宜を図っている。  
皮膚外科治療も実施している。

### ②常勤医師の氏名

なし

### ③非常勤医師の氏名

高知県立大学 派遣医師：池田 光徳

（文責：非常勤医師 池田 光徳）



## 泌尿器科

### ①活動内容・目標に対する達成状況

現在、月、火、木、金の週4日外来を担当しています。平成30年4月から、木曜日の午後は細木病院で外来診察をしています。

専門は泌尿器科全般を基本に、泌尿器科がん、前立腺肥大症、過活動膀胱、腹圧性尿失禁、膀胱炎、腎盂腎炎、尿路結石などを診察しています。

患者数は時間経過とともに増加傾向にあり、令和元年には外来患者数の倍増を目指しています。

### ②今後の課題

平成30年度は外来患者数の増加を認め、平成29年度

を補正しても145%になり、特に過活動膀胱、腹圧性尿失禁、前立腺肥大症、前立腺がんが増えました。今後は大学時代に専門としていた夜尿症など小児泌尿器科も診ていきたいと思えます。また、基幹病院から、泌尿器科がん患者の経過観察、継続治療の紹介が増えてきていますので、対応できる地域病院として、発展していきたいと考えています。

### ③常勤医師の氏名

山本 志雄

(文責：泌尿器科科長 山本 志雄)

## 形成外科

### ①活動内容・目標に対する達成状況

外来ではこれまで美容を主として担当していたが、外傷、小手術や褥瘡診察も行うこととなった。これに伴い外来からの褥瘡入院が、内科のご支援のもと従来の持ち込み入院や入所に加えて増加した。院内褥瘡に関して、今年度は発生率、治癒率ともに目標を達成した。また、外来患者数は前年度より増加した。

### ②今後の課題

外来業務拡大に伴い、予約時間を守りつつ予約外の

診療を滞りなく行うことが今後の課題である。

### ③常勤医師の氏名

なし

### ④非常勤医師の氏名

三好 みちよ

(文責：非常勤医師 三好 みちよ)

## 婦人科

### ①活動内容・目標に対する達成状況

平成30年度の対象疾患は、排卵機能異常、月経異常、ストレス症候群、子宮がん検診高齢婦人の合併症としての婦人科疾患でありました。

### ②今後の課題

これらの方の問診を分析しますと、いろいろ多くの不安・疑問に納得のいく状況を求め、一応の心理的決着の後に、改めて治療に向かうという過程の在り方に、不慣れな状況であることが示唆されるように考えられました。

不慣れとは、問診以後の治療環境への影響を、いろいろな要素で考えられているという意味であります。

一昨年セカンドオピニオン外来の開設が、広く周知されるほど、本院のオンリーワンとしての存在が県民に理解され、医療に対する県民の目を大きく変えるとともに、本院への期待も増すので、効果的な広報をしていただきたいとお願いしました。

昨年の外来診療の分析からは、セカンドオピニオン後の、自身の行動に対する決断の仕方に、人それぞれに、改めての感を生じていることが推測されます。

セカンドオピニオンでは、事後の行動については、強く干渉してはなりません、改めて生じた戸惑いにも、正しい包容力をもって接していかなければならないことを教えられます。

この三愛病院の試みは、今年度の分析からも、将来、開設に際して考えた意義ある大きな成果が期待され、大切に実施していくべきものではないかと思っております。

### ③常勤医師の氏名

なし

### ④非常勤医師の氏名

相良 祐輔

(文責：非常勤医師 相良 祐輔)

## ● 精神科

### ① 活動内容

高知大学医学部精神科医局より、須賀楓介<sup>す が ふうけい</sup>が不眠外来として1カ月に4回（第1・第3金曜日午後と第2・第4土曜日午前）、また、上村直人<sup>かみむらなおと</sup>がもの忘れ外来として毎週木曜日午前に診察している。同時に、入院患者、および介護老人保健施設あうん高知の入所者の精神症状の見られる方の診療にも当たっている。なお、もの忘れ外来には公認心理士<sup>なかやまあいり</sup>の中山愛梨が大学医局から派遣されている。

### ② 常勤医師の氏名

なし

### ③ 非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師  
上村 直人  
須賀 楓介

（文責：非常勤医師 上村 直人）

## ● 放射線科

### ① 活動内容・目標に対する達成状況

当科では外来各診療科や病棟、健診室から依頼を受けた画像の読影診断、超音波検査、胃透視検査を行っている。

最近の傾向として、健診室からの胸部X線画像の読影や胃透視検査の件数が多く、むしろ診療科から依頼を受ける画像診断の読影業務が少ない傾向にあると思われる。診療科からの依頼ではやはり、一般胸部X線画像やCT画像の読影が超音波検査よりも多いようである。

作成に時間を要しており、特にCTに関して遅れがちであると思われる。そのため、印刷したレポートと手書きのレポートを混在させている現状である。当院でも電子カルテの導入が進められており、それに合わせて迅速で質の高い電子レポートの作成に努力したい。

### ② 今後の課題

迅速な撮影と画像の作成に比較して読影レポートの

### ③ 常勤医師の氏名

岩井 智郎

### ④ 非常勤医師の氏名

なし

（文責：放射線科長 岩井 智郎）

## ● 健診室

### ① 活動内容・目標に対する達成状況

#### 1) 活動内容

- ① 生活習慣病予防健診（協会けんぽ）、特定健康診査（特定健診）、事業主健診（企業健診）、人間ドック、高知市子宮がん検診、大腸がん検診、肝炎ウイルス検査、一般健診など。
- ② 職員健診

#### 2) 目標達成状況

##### ① 目標

生活習慣病予防検診（協会けんぽ）受診者数  
400件

特定健康診査（特定健診）受診者数 300件

事業主健診（企業健診） 700件

人間ドック 20件

##### ② 達成状況

生活習慣病予防検診は、前年度373件から今年度509件と大幅に件数を伸ばし、目標の400件を大き

く上回った結果となった。その他、特定健診288件、企業健診654件と目標には一歩届かなかったが、前年度を上回る結果となっている。

### ② 今後の課題

平成30年度の延べ健診者数は1,795名であり、健診受診者数は年々増加している。設備や人員の問題から今以上に受け入れをすることが難しい現状ではあるが、できる限りニーズに応え、地域の病院として生活習慣病予防、疾病の早期発見に貢献していきたい。

### ③ 常勤医師の氏名

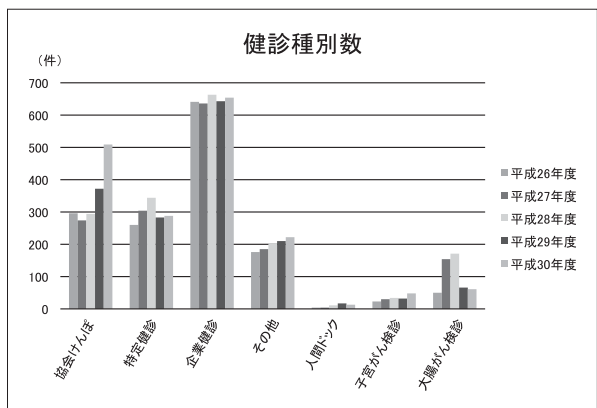
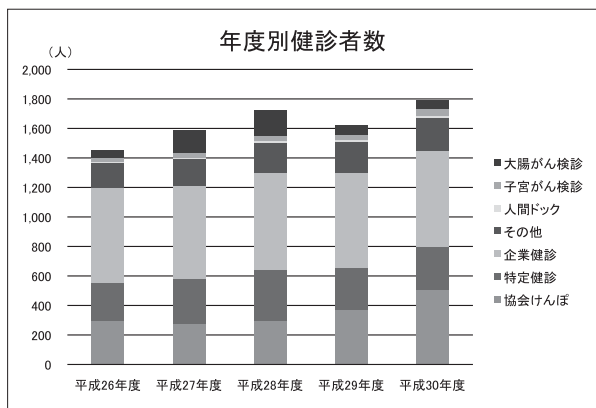
岩井 智郎

### ④ 非常勤医師の氏名

なし

■ 健診室 業務実績件数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
協会けんぽ	296	274	294	372	509
特定健診	260	304	344	283	288
企業健診	641	636	663	643	654
その他	176	185	203	210	222
人間ドック	4	4	11	17	13
子宮がん検診	23	30	34	32	48
大腸がん検診	50	154	171	66	61
合計	1,450	1,587	1,720	1,623	1,795



(文責：外来看護師長 濱名 郁里)

## 看護部

### ①概要

構成部署：看護部長室・医局秘書・医師事務補助

看護部長：元吉 ひとみ

構成職員：看護師 1名  
事務員 3名  
合計人数 4名

### ②平成30年度 目的・目標

1. 地域住民の『健康増進』のため、社会支援活動を積極的に行う
2. 当院を訪れるすべての患者に寄り添い、看護の力を最大に発揮する
3. 患者の人権と権利を尊重し、安全で最適な療養環境と質の高いケアを提供する
4. 社会情勢に適応し、組織の発展に向けて積極的に行動する
5. 専門職としての責任を果たすため、研鑽を重ね常に最新の知識と技術を習得する
6. チーム医療での治療効果を最大に発揮できるようチームの調整役となる

### ③目標に対する取り組み

看護部門の目標達成および病院全体の組織力向上に貢献するために、平成29年度から配置開始した副看護師長の活躍定着により、部署を超えての委員会活動や他部門への業務協力など大きく貢献することができた。看護職員の部署内での教育体制も充実したことで、入外患者さんへのサービスの質向上をさせること



ができた。

地域活動としては、地域健康セミナーの開催を主導し地域住民である来場者からの好反響をうけ2回の開催と次年度以降への継続を決めることができた。このセミナーでは来場者の満足感はもちろんであるが、準備から関わった職員のチームワーク強化、士気向上、そして病院の顧客増にも貢献することができ、大きな成果となった。

### ④次年度の課題

1. 地域包括ケア病床の届け出に向けた看護体制の変更
2. 電子カルテ導入に向けた業務改善と職員教育
3. 介護療養病棟から介護医療院への変換に向けた病床環境の改善

(文責：看護部長 元吉 ひとみ)

## ● 愛1病棟

### ①概要

病棟形態：障害者施設等一般病棟  
(10：1入院基本料)

病床数：53床

所属長名：戸田 里子

構成職員：看護師 21名  
准看護師 3名  
介護福祉士 2名  
看護助手 2名  
クラーク 1名  
合計人数 29名



### ②平成30年度 目的・目標

1. 関係部署との連携を密にし、障害病棟の役割を果たす
2. 看護実践能力を高め、安全・安楽な個別性のあるケアが提供できる

### ③目標に対する取り組み

1. 稼働率については平均77.32%と平成29年度の78.31%を下回り、目標の85%もクリアすることができなかった。障害非対象患者の入院が多いうえ、対象患者の死亡退院などで障害率が75%以下になることがあった。そのため非対象患者のヌ

ムズな受け入れができず、入院より退院が上回る月が多かったことが要因となっている。今後は、稼働率・障害率ともに下げないために、入院相談会での検討時に対象患者・非対象患者をセットで受け入れることや対象患者を積極的に受け入れることで障害率80%以上キープし、稼働率85%以上となるようにしていく。

- 他職種との連携については、入院時カンファレンスの実施により、個別性をふまえて今後の方向性の統一を図ることができ、それに向けてのケア内容も決定し実施した。しかし、数日間ケア内容を伝達しているが、情報を確実に周知できずケアの統一ができていないことがあった。ケアの統一が図れるよう周知方法について再検討していく。退院前のカンファレンスについては、ケアマネや利用するサービスのスタッフを交えて実施することで退院後の情報共有が図れた。これらカンファレンス開催についてはSWとの連携が不可欠であり、今後も連携を深めて効果的なカンファレンス開催ができるようにしていく。

人材育成については、副師長・主任・プリセプター

を中心に教育・指導を行い、リーダー会などで情報共有し、指導方法の検討や統一を図ることができた。中堅看護師については、実習指導担当にすることで教育・指導に携わる機会を持ち、教育について考えることができた。

自己研鑽は個々によって参加率に差があり、自己の目標時間をクリアできていないスタッフがいる。特に院外研修への参加率が低いため必要な研修については個別に参加促しを行っていく。介護職の必須研修については、当日参加が難しく別の日にVOD視聴を行い、全員が基準をクリアすることができた。

#### 4 次年度の課題

- 関係部署との連携を密にし、障害病棟の役割を果たす
- 看護実践能力を高め、質の高い個別性のあるケアが提供できる
- 薬剤関係のマニュアル作成

(文責：看護師長 戸田 里子)

## ● 愛2病棟

### 1 概要

病棟形態：障害者施設等一般病棟  
(10対1入院基本料)

病床数：45床

所属長名：谷山 智砂

構成職員：看護師	18名
准看護師	4名
介護福祉士	5名
看護助手	3名
クラーク	1名
合計人数	31名



名中6名(75%)が自宅へ退院した。しかし、年間の自宅退院者は8名であり、全退院者の約20%であった。これは、昨年に比べ3名(0.5%)減少しており、長期入院目的での入院患者が増えたためと考えられる。諸加算に対しては、医事課と連携を取り算定できている。

### 2 平成30年度 目的・目標

- 障害病棟としての役割を果たす
- 看護の質を高め、患者満足の向上に努める

### 3 目標に対する取り組み

- 平均障害率80.14%、平均稼働率90.05%(40.5名)で、目標を達成することはできた。

入院相談会で他部署の状況を把握し、障害率・稼働率を確認しながらベッド調整を行うことができた。緊急入院に対しては相談員が介入し、他部署の状況を確認しながら協力・受け入れを行った。入院時カンファレンスを入院後1週間以内に開催し、退院支援計画書・介護支援連携指導書などを作成している。相談員との連携でケアマネジャーの参加も多くなっており、自宅からの入院患者8

- 職務や役割について年度初めに勉強会を行っている。役割を考えながら業務にあたることでスムーズな業務遂行ができるように努力した。日々の業務やヒヤリハット検討会などで問題提起されたことに対し、必要時は業務改善へとつなげることができている。

患者満足度の向上のため、患者や家族へは積極的に声を掛け、希望や思いを引き出せるように関わっていった。家族の要望はカンファレンスで共有し、必要時は主治医へ相談を行っている。反面、患者や家族との関わりの中で、なれなれしさ

や不適切な対応など、倫理観に反すると考えられる行為が見受けられることがあった。病棟のスタッフ全員に注意をするとともに個人的にも注意を行った。

新人指導は、プリセプターを中心にリーダー看護師と協力しながら行ったが、チェックリストや進捗表を十分に活用できず、未経験項目が幾つか残る結果となってしまった。次年度は今期の反省を基に、チェックリストや進捗表の見直しを行っていききたい。

委員会は年間計画に沿って活動し、部署会で情報共有できている。

研修への参加は個人による差が大きい。数年前からVOD研修を取り入れているが、参加希望や自宅学習者はほとんどいない。介護職は必須研修項目を設定していたため、研修時間数は増えている。

#### 4 次年度の課題

1. 関連部署との連携を密にし、障害病棟としての役割を果たす
2. 看護の質を高め、患者満足の上昇に努める

(文責：看護師長 谷山 智砂)

## ● 愛3病棟

### 1 概要

病棟形態：介護療養型医療施設  
(療養機能強化型A)

病床数：48床

所属長名：中平 好昭

構成職員：看護師	12名
准看護師	1名
介護福祉士	11名
看護助手	2名
介護支援専門員	1名
(介護福祉士)	
クラーク	1名
合計人数	28名



で落ち込んでしまった。下半期は平均稼働率90%以上を保ったが、上半期の稼働率が影響し、1年間の平均としては87.8%と前年度の93.7%を下回り、目標としていた90%以上の維持が達成できなかった。経管栄養や吸引を要する患者が増えたことで、課題となっていた深夜帯の職員体制の改善は、前年度は3時出勤勤務や他部署看護職員の応援をもらい対応したが、今年度は新入職員の定着もできず、深夜看護職員の配置を継続して行うことができた。病棟再編に向けた取り組みでは、介護医療院開設の計画が具体化してきており、それに合わせて職員や患者、家族、地域の方々への説明を随時行っていく。

### 2 平成30年度 目的・目標

1. 病棟基準の維持
  - 1) 施設基準を念頭に置き、他部署と連携し、入院稼働率90%以上とする
  - 2) 入院患者層に合わせた勤務体制の変更や業務改善を行う
  - 3) 病棟再編に向け、各自が理解し積極的に取り組む
2. 看護・介護の力を発揮しサービスの質を高める
  - 1) 患者の人権、権利を尊重した安全な療養環境の提供ができる
  - 2) 地域や家庭との結び付きを大切にしたサービスの提供ができる
  - 3) 自己研鑽に努め、専門職として能力が発揮できるように知識・技術を習得する

### 3 目標に対する取り組み

1. 療養機能強化型Aの要件である重度者割合・処置実施割合の50%以上と看取り対象割合10%以上は1年を通して保つことができた。しかし、医療依存度の高い患者が増えてきたことで、上半期は死亡退院(9名)が重なり、稼働率が平均85.3%ま

2. 今年度は全介助レベル患者の更衣時に骨折事例が2件発生した。SHELL分析と検討会を行い、全介助レベル患者で四肢脱力や拘縮の強い患者のケアは、必ず2人介助で対応できる体制作りや業務改善に取り組んだ。改善内容としては、ケアの優先順位決め、2人介助が必要な患者選定と職員間で統一した認識ができるような表記方法の取り決めを行った。また、介護主任が中心となり、患者移乗時のスライディングシートの活用や職員の腰痛予防の取り組みを行い、毎日のショートカンファレンス時に腰痛予防体操の実施が定着した。地域との交流は、小学校の音楽会参加や一宮ふれあいまつりに患者作品の展示と健康相談コーナー

への職員参加ができた。職員教育では、県事業の介護職員研修代替、有給休暇取得代替の派遣職員を活用し、職員の研修参加が増え、有給休暇取得率も前年度より高くなった。これからは職員が積極的に自己研鑽に努め、専門職として力が発揮できるようなサポートを行っていく。

(文責：看護師長 中平 好昭)

#### 4 次年度の課題

1. 施設基準の維持と病棟再編に向けた準備
2. 看護・介護の力を発揮しサービスの質を高める

## ● 外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」

### 1 概要

所属長名：濱名 郁里  
 構成職員：看護師 10名（1名健診兼務）  
 准看護師 2名  
 看護助手 2名  
 保育士 2名（病児保育室担当）  
 事務員 1名（健診担当）  
 合計人数 17名



### 2 平成30年度 目的・目標

1. 地域に根差した外来看護サービスの提供
2. 人材育成
3. 患者満足度の向上

### 3 目標に対する取り組み

1. ①昨年度より、在宅で通院困難な患者に対し毎週土曜日に訪問診療を実施している。平成29年度、訪問延べ件数63件、平成30年度は延べ件数93件と徐々に実績を上げている。また、必要に応じて病院からの訪問看護も行っているが、平成30年度は15件と例年より多く訪問させていただいた。訪問診療は医師が非常勤であるため、祝祭日・夜間の緊急時に往診の体制が取れていない。終末期の在宅医療では緊急時の体制は必須であり、今後の課題である。  
 ②平成30年度病児保育室は、開設日数292日（うち保育実施日250日）、延べ利用児数590名であり、目標の延べ数600名はクリアすることができなかった。利用児590名に対し、キャンセル待ちで利用できない児は469名もあり、少しでも多くの病児

が利用できるよう部屋の調整などを行っていきたい。

2. 今年度は、在宅褥瘡管理者セミナーに1名参加し修了証を授与された。それにより在宅患者訪問褥瘡管理料が算定できるようになったため、今後の在宅看護に生かしたい。今年度は学会や学術集会での発表はなかったが、毎月勉強会を開催して知識・技術の向上を図っている。
3. 日々、待ち時間短縮のための対策や接遇などを念頭に置き業務に当たっている。診療科が増えたことで、遠方の病院に行かなくても当院で複数科の診察ができるようになったが、検査や診察の待ち時間と合わせると長くなることもあるため、他部署との調整・連携に努めている。

#### 4 次年度の課題

1. 地域に根差した外来看護サービスの提供
2. 人材育成
3. 患者満足度の向上

(文責：看護師長 濱名 郁里)

# 医療技術部

## ● 薬剤室

### ① 概要

所属長名：小野 正英  
 構成職員：薬剤師 4名  
                   事務員 1名  
                   合計人数 5名

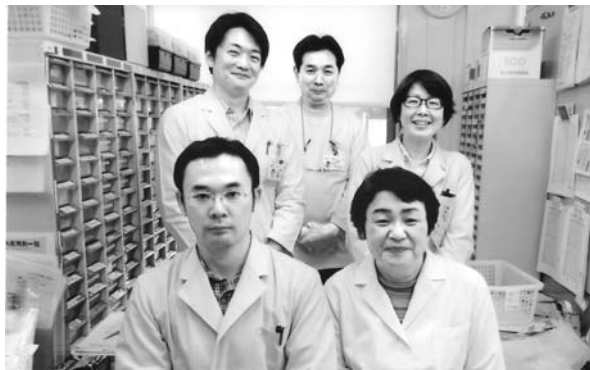
### ② 活動内容・目標に対する達成状況

#### 1. 活動内容

- ① 相手を思いやる・尊敬する
- ② 適正な医薬品管理と薬物療法の推進により、病院経営に貢献する

#### 2. 薬剤の保管・管理の検討

平成30年度の処方箋枚数（内服・外用）は8,552枚であった。また後発医薬品の使用率は平成29年度が76.7%で、平成30年度は75.7%であり、後発医薬品使用体制加算3を維持できた。今後、後発医薬品の使用率を上げるには、同種・同効薬の整備が必要と考える。



### ③ 今後の課題

平成30年12月に「医薬品の安全使用のための業務手順書作成マニュアルの改訂」の通達があり当院の手順書も現在、編集を行っている。しかしながら、全面的に改訂が行われているため、他部署との話し合いを行い、改訂を行う必要があると考える。

（文責：薬剤室長 小野 正英）

## ● 放射線室

### ① 概要

所属長名：廣田 任成  
 構成職員：診療放射線技師 1名  
                   合計人数 2名

### ② 活動内容・目標に対する達成状況

1. 前年度目標であった、一般撮影検査、X線透視装置の機器更新はできなかったが、保守契約を結べたことは良かったと思う。その他の目標は達成できた（他病院の検査増加への対応、個人被ばく管理、漏洩線量測定、電離則健康の届出、放射線に関する職員教育など）。
2. 昨年同様US（超音波検査）以外のすべての検査は、今年度も多少ではあるが増加した。全体件数で前年度より6%増加の6,073件で初の6,000件台になった。生活習慣病の胃透視検査は前年度よりも33%、CT検査も7%増加した。

### ③ 今後の課題

1. 生活習慣病の胃透視検査、CT検査などは着実に増加しているため、待ち時間が長くないよう



に対応していきたい。昨年同様US（超音波検査）の件数だけが減少しているため、US（超音波検査）の得意分野を知ってもらい検査増加につなげたいと考えている（頸部の甲状腺、腹部の胆のうや肝臓の小病変の発見など）。

2. 一般撮影装置、X線透視装置、ポータブル撮影装置、自動現像機（購入から19年が経ている）の機器更新がいつになるのかわからないため、日頃の点検と、機器更新までの維持や故障時の対応が課題になると考えている。

（文責：放射線室主任 廣田 任成）



## ● 臨床検査室

### 1 概要

所属長名：栄田 美智子  
構成職員：臨床検査技師 3名  
合計人数 3名

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 検査件数は前年とほぼ同じで平成27年度以降安定した上昇傾向にある。機器管理、精度管理も良好である。
2. 自己研鑽については、各人十分とはいえ引き続き課題となる。
3. 業務の整理は継続中である。
4. 外来、健診室、放射線科と連携を図り、スムーズな健診ができるよう努めた。

### 3 今後の課題

1. 電子カルテの導入に際し、知識、技術を習得する。
2. 4月採用の新人に、確実な業務ができるよう教育する。



3. 引き続き課題となっている自己研鑽に力を入れていく。
4. 各マニュアル、標準作業書、集計報告書、委員会業務など整理整頓し変更事項を即修正できるようにする。

(文責：臨床検査室長 栄田 美智子)

## ● 栄養管理室

### 1 概要

所属長名：石山 由香  
構成職員：管理栄養士 3名（うちパート1名）  
合計人数 3名  
給食業務委託：富士産業株式会社 14名

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容
  - ・ 栄養ケア・マネジメント加算の実施
  - ・ 入院患者に対する栄養管理
  - ・ 病棟カンファレンスの参加
  - ・ 実習生の受け入れ
  - ・ 嚥下検査食（VE検査）の提供
  - ・ 各種委員会の参加
  - ・ グループホームいろは丸 料理教室

#### 2. 目標に対する達成状況

[目標]

- ① デイケアファイト、デイサービスいろは、グループホームいろは丸の栄養管理を行う。
- ② 栄養ケア・マネジメントの実施と低栄養リスク改善加算の算定を行う。
- ③ 栄養指導の強化を行う。
- ④ 患者さまの病状に応じた食事の提供に努める。
- ⑤ 研修会など積極的に参加し、自己研鑽に励み日々の業務に生かす。



[達成度]

- ① デイケアファイト、デイサービスいろは、グループホームいろは丸を利用している方を対象に栄養スクリーニングを行い、各関連事業所に利用者さまの栄養状態について情報提供を行うことができた。
- ② 三愛病院介護病棟とあうん高知では、多職種協同で患者さまおよび利用者さまの状態に応じ食事を提供することができている。また、低栄養リスクの高い患者さまに対して積極的に介入し栄養状態を改善するための食事の調整を行うことができた。
- ③ 外来および入院患者さまに対して糖尿病や脂質異常症、腎臓病などの栄養指導を行っている。昨年に比べ指導件数の増加はなかった。

- ④カンファレンスの参加や食事巡回を行い食事の問題について多職種で検討を行い患者さまの病状に応じた食事の提供を行うことができた。
- ⑤積極的に院内外の研修会やWEBセミナーを活用し新たな知識・アイデアなどを得ることができた。今後も、積極的に研修会に参加し幅広い知識を得て患者さまの治療に貢献し、信頼と満足を得られるように努める。

### ③今後の課題

給食業務委託会社と協力しながら入院患者さまや入所者さまが喜んでいただける食事の提供に努める。また、入院患者さまの多くが高齢者であり、身体の器官や機能が衰えるため患者さま一人ひとりの身体機能に応じた食事提供が行えるよう、今後も学会や講習会・研修会に積極的に参加し自己研鑽に努める。

(文責：栄養管理室主任 石山 由香)

## ● リハビリテーション課

### ①概要

所属長名：門脇 貴代  
 構成職員：理学療法士 9名  
                   作業療法士 4名  
                   言語聴覚士 4名  
                   リハビリ助手 1.5名  
                   合計人数 18.5名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

- 地域との連携
  - ①介護予防教室の講師を2件継続実施している。
  - ②地域連携ネットワークへの定期参加を行っている。
- 方向性を見据えたリハビリテーションの提供
  - ①入院時カンファレンスへの参加と部署内カンファレンスなどでの対応方法検討の実施。
  - ②PT・OT・ST担当制の利点を生かした、詳細な変化への臨機応変かつスピーディな対応。
  - ③自宅訪問での情報の効果的な活用。
- 採算制への努力
  - ①人員数前年度比89.2%において、前年度比94.3%の算定額をあげることができた。
  - ②実施単位数18単位/1日の目標達成率95%をクリアできた。



### 4. 改正に応じた書類作成

- ①医療・介護の改正に応じ、支障ないように作成・運用できた。
- ②不定期な書類の抜き取り防止にチェックシートを作成し、トリプルチェック体制で実行した。

### ③今後の課題

1. 訪問リハビリテーション事業の拡大
2. 退院先での生活への適応をふまえたリハビリテーションの提供
3. 採算性への努力の継続
4. 質の向上を目指すシステムづくり

(文責：リハビリテーション課長 門脇 貴代)

## □ リハビリテーション課 理学療法室

### ①概要

所属長名：門脇 貴代  
 管理者名：主任 濱田 くるみ  
 構成職員：理学療法士 9名  
                   (うちあうん高知入所 2名)  
                   合計人数 9名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域住民に向けたリハビリテーションの提供  
 今年度はサロンドいろは、一宮ふれあいカフェより講師依頼を受け、理学療法室からは一宮ふれあい



カフェにて「脳とカラダを同時に刺激！！デュアルタスク（二重課題）で認知症予防！」の講演を行った。

## 2. 個々の自己研鑽の継続

研修会などへの参加は自主性に任せているが、今年度は個々の興味や関心に合わせた研修会を所属長と主任が相談し、消極的な職員に参加を促した。

## 3. 具体的な目標を持ち、採算性への努力を個々に行う

個々が自身で単位数の管理が行えるよう、1カ月の予定を立て、意識付けを行った。また主任会を定期的に開催することで、具体的な対策を検討した。

### ③今後の課題

#### 1. 地域住民に向けたリハビリテーションの提供

昨年に引き続いて、認知症カフェやサロンドいろ

はでの講演などを行い、一宮地区住民の健康づくりに積極的に貢献する。講演担当者だけでなく、他職員の積極的な参加を促す。また病院主催の地域健康セミナーにおいては、専門性をもって参画する。

#### 2. 在宅、施設での生活を想定したリハビリテーションの提供

症例検討会の内容を一新し、より方向性を意識した対応ならびに専門性の向上を目指す。

また研修会などへの参加増加の方策を立てる。

#### 3. 採算性への努力

月1回の主任会を活用し、目標単位数の振り返り、問題点の抽出、検討など、スピーディーに修正できるように努める。個々の意見も反映していけるよう、課長、主任の連携を強化する。

（文責：理学療法室主任 濱田くるみ）

## □ リハビリテーション課 作業療法室

### ①概要

所属長名：門脇 貴代

管理者名：主任 竹倉 佐和子

構成職員：作業療法士 4名

合計人数 4名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

#### 1. 効果的、効率的なOTの介入

平成30年度は育休中の1名に加え、1名の退職と昨年度OT5名に対し3名体制の時期があり、限られた人員の中で、より効率的に介入するため、業務体制の見直しを繰り返す必要があった。

#### 2. 専門職としての知識、技術の病棟への汎化

ADL場面では病棟との情報共有を行いながら、食事用自助具の評価と適合、食事時のシーティングの検討、重度の拘縮や多動、皮膚の脆弱なケースに対しポジショニングを実施した。また、適合する既製品がない時はシーティング、ポジショニングクッションの作製を行った。入院カンファレンスや退院前カンファレンスなど、多職種が会する場が増えており、意識してOTとしての意見が寄せられるよう各自が研鑽を積んでいる。

#### 3. 地域との連携強化への取り組み



介護予防教室や認知症カフェへの参加は継続しており、地域の方の病院に対するニーズの掘り起こしと交流の大切さを痛感している。

### ③今後の課題

1. 今後の病棟編成を見据え、よりスピーディーに退院支援が行えるよう、OT内の勉強会や現場でのモニタリング、意見交換を密に行っていく。

2. 自宅退院後、当院訪問リハビリにつながるケースが増えており、今後はさらなる連携の強化と引き継ぎのマニュアル化を図り、切れ目なく質の高いリハビリが提供できるよう尽力していく。

（文責：作業療法室主任 竹倉 佐和子）

## □ リハビリテーション課 言語聴覚療法室

### ①概要

所属長名：門脇 貴代

管理者名：主任 谷口 桃子

構成職員：言語聴覚士 4名

合計人数 4名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

#### 1. 業務内容の拡大

平成29年4月からST4名体制での業務がスタートし、訪問STの開設や病棟担当制の導入など、徐々に業務拡大が図れた。病棟スタッフとのコミュ

ニケーションも取りやすくなり、嚥下機能や口腔ケア方法などについて意見を求められる場面も多くなった。

## 2. 病院外の事業への参加

平成30年12月23日、「お口の機能と健康寿命」というタイトルで、サロンいろいろで勉強会を開催した。参加者は若い方が多く、普段嚥下や口腔機能の低下は感じていないということであったが、咀嚼ガムを使った咀嚼力評価にて実際に咀嚼機能低下が可視化されることで、口腔、嚥下機能の維持、および機能低下予防に向けた意識付けが図れた。

## 3. 訪問ST

ケース件数は2件と少なかったが、多職種との連携や、外部機関での担当者会や勉強会への参加など、啓蒙活動を行うことで、訪問STの認知度向上が図れた。

## 4. 採算性向上への努力

1人平均18単位取得に向けて、効率の良い働き方をするということが個々に意識付けできた。摂食機能療法での算定もできるだけ取りこぼしなく行うよう努力し、算定増につながった。

## 5. 個々のスキルアップ

新患を中心に、初期評価、目標設定、訓練プログラム設定などをST内で報告し、初期評価の振り返



りおよび今後の流れについてアドバイスする場を設けた。お互いの訓練内容を知ることができる良い機会となり、個々のスキルアップや評価のスピードアップにつながった。

## ③今後の課題

1. 今後も効率の良い業務を遂行していく必要があるが、その中で嚥下機能評価の実施や業務マニュアル作成など、より質が高く安全なリハビリテーションの提供を行えるよう努力していく。
2. 今後も病院内外での勉強会や研修会に参加することによりSTの啓蒙活動を図り、誤嚥性肺炎の予防につなげていきたい。

(文責：言語聴覚療法室主任 谷口 桃子)

## ● 医療相談室

### ①概要

所属長名：澤田 恵里

構成職員：社会福祉士 4名

(うち病棟担当3名、  
育休中1名の計4名)

合計人数 4名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

#### 1. 安定したベッドコントロール

平成30年度の入院相談件数は212件。うち、受け入れ可件数は109件で、受け入れ率は51.4%であった。前年度受け入れ率は41.7%に対して、9.7%向上している。

機関別入院相談件数は、高知赤十字病院33件、近森病院31件、いずみの病院28件である。以下はグラフ参照(グラフ①)。

平成30年度の退院件数は139件で、自宅への退院が47件、施設入所が26件、転院が9件、死亡退院が57件だった。今年度は、転院した患者が減少し、死亡退院の患者が多くなっている。

#### 2. 入退院支援への取り組み

障害者一般病棟にて入退院支援加算2の算定をしており、介護支援等連携指導料もケースにより指導を行っている。平成30年度は、ケアマネジャーと



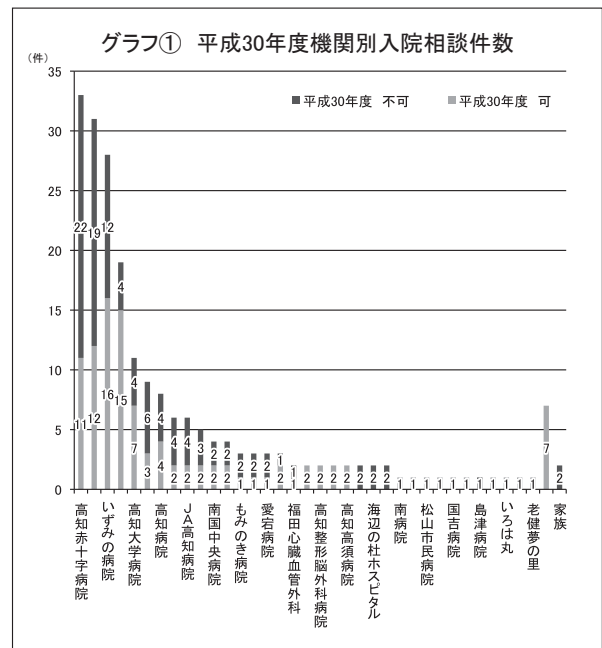
の連携強化のため、各病棟師長と協働し、「これからの退院支援～当院の取り組みについて～」と題して、入院7日以内に開催するカンファレンスにケアマネジャーの同席を依頼し、退院に向けての目標設定を一緒に行っていることを院内発表会にて発表した。

## ③今後の課題

1. 平成30年度は、受け入れ率の向上に反して、目標患者数に達しない月が多くみられ、予期せぬ死亡退院や、急な退院に対して予定入院の調整が困難な時期があった。主治医の持ち数の限界や、障害率の調整など、要因はさまざまであった。次年度は、内科医も増員となったため、より円滑なベッ

ドコントロールに努めていきたい。

2. 入退院支援加算2、介護支援等連携指導料ともにマニュアルを作成しているが、今後、病棟と医事課スタッフとも協働して、よりスムーズなマニュアル作成に向けて見直しを行っていきたい。
3. 平成31年3月末で1名退職となったが、令和元年年5月1日より、育児休暇中のスタッフが復帰し、医療相談室は引き続き3名で対応している。令和元年度は、介護病棟の医療院への変換、電子カルテ導入、地域包括病棟への病棟再編の準備など、目まぐるしい変換にソーシャルワーカー自身も対応し、また患者家族への説明も重要となるため、法人内での円滑なコミュニケーションのためにも、令和元年度も引き続き仁生会のソーシャルワーカーの連絡会にて情報共有を行っていきたい。



(文責：医療相談室主任 澤田 恵里)

細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院  
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

## 事務部

### ①概要

所属長名：部長 植田 宏平  
構成職員：副部長 1名  
合計人数 2名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

『平成30年度三愛病院事務部の目標』

病院運営への参画意識を強く持ち、実行できる事務部門を目指す。

1. 当事者意識を持って担当業務を行う。
2. 仁生会全体の方向性を把握し、積極的に協働する。
3. 病院業務全般が潤滑に進むように改善に取り組む。

### ③達成状況

1. 産休などによる人員の交代や人員の減少など、担当業務が煩雑になりがちだったが、責任感をもって業務に当たれたと感じる。さらに事務部門全体としての意識向上、スキルアップ、節約意識の向上に努めたい。
2. 仁生会全体の方向性の把握には努力したが、協働による十分な成果を上げるには至らなかった。実行力を高めるよう努めたい。
3. 日常業務に追われ成果を上げるには至らなかった。業務整理を行い効率的な業務遂行を目指す必要がある。



### ④今後の課題

1. 三愛病院病棟再編  
三愛病院病棟再編委員会にて計具体化された計画を確実に実行に移す。また計画により発生する工事や新たな機器導入に強い責任感をもって、安全かつ潤滑に行う。
2. 組織力強化  
事務部門全体の業務に対する意識向上に努める。またそれぞれが担当する業務の専門性を高め、遂行能力と事務部門の組織力の強化を目指す。そして三愛病院において発生するさまざまなオーダーや課題に的確に対応できる組織を目指すとともに、仁生会内において横断的に発生する課題にも確実に対応していく。

(文責：事務部長 植田 宏平)

## 総務課

### ①概要

主任：鳴瀧 有人  
小松 美紀  
小川 歩美  
構成職員：総務 7名  
施設 2名  
運転 1名  
合計人数 10名



### ②活動内容・目標に対する達成状況

人事・労務管理・給与・会計・PCおよびITシステム管理・用度・社内規定・福利厚生・各種申請・書類作成・院内外行事・環境管理・冠婚葬祭・施設管理・運転業務など幅広く行っている。

取り組み：修理や物品購入のコスト見直しのため修理依頼書を作成した。  
積極的に医療介護報酬改定の勉強会に参加。

残業時間 1人当たり5.3時間→2.6時間に削減。

### ③今後の課題

1. 病院の取り組みに積極的に関わる
  - 1) 病棟再編に主体的に取り組む
  - 2) 電子カルテ導入
  - 3) 業務の効率化とコスト削減を図る

2. 質の向上に取り組む
  - 1) 報・連・相の徹底
  - 2) 研修会・勉強会の環境整備
  - 3) コスト意識を持つ
  - 4) 定期的な業務の見直し

まとめ：人員の入れ替わりに備えて、各担当がマニュアルの整備を行う。  
また、報告・連絡・相談を徹底し、業務の効率化とチームワークの強化に努めたい。

(文責：総務課主任 鳴瀧 有人)

## ● 医事課

### 1 概要

副部長：大藤 幸一  
主任：百田 知佐子  
主任：小田 雅代  
構成職員：事務員 15名  
合計人数 15名



### 2 活動内容・目標に対する達成状況

(平成30年度目標)

1. 医事課業務の健全化
  - ・業務体制の見直しを図り、健全で安定した医事課にする。
2. 請求業務のレベルアップ
  - ・個人スキルの向上、リーダー的人材育成を図る。
  - ・病名漏れや算定漏れの削減に努める
3. 残業時間の削減（月45時間以内）
  - ・通常業務、請求業務の創意工夫（正確化・効率化・簡略化）を図る。

平成30年度は業務の創意工夫を図り、特に保険請求は効率よく業務を行うことができ、残業時間の増加を抑え、月40時間以内を達成できたことが大きな成果がありました。

しかし、日々の業務を回すこと、残業を増やさないことに集中するあまり、接客能力の向上など人材育成

に力を注げなかったことが今後の課題として残りました。

### 3 今後の課題

平成30年度の課題となった、個人のスキルアップ向上に力を入れ、仕事の精度を高めるために業務マニュアルの加筆・修正を行っていきます。

また、来年度は、電子カルテの導入、データ提出加算の算定、介護医療院（病棟）・地域包括ケア（病床）への移行に向けた重要な年となり算定要件などを確認し、正確な診療報酬・介護報酬の請求に努めていきます。

(文責：医事課副部長 大藤 幸一)

## 在宅部

## ● 居宅介護支援事業所「一宮」

## ① 概要

所属長名：	和田 真樹
構成職員：	主任介護支援専門員 2名
	介護支援専門員 3名
	合計人数 5名

## ② 活動内容・目標に対する達成状況

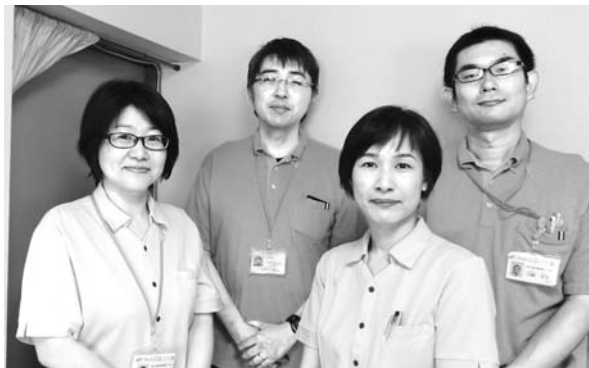
要介護認定を受けた在宅で生活されるご利用者、ご家族からの相談に応じて、アセスメントに基づいた居宅サービス計画を作成する。また利用状況の確認や、関係機関との連絡調整、必要な手続きを行い、可能な限り自宅での生活が続けられるよう支援している。

## 1. 総合事業に対応し、特色ある事業展開を図る

介護支援専門員の基礎資格は介護福祉士、社会福祉士、看護師とそれぞれであり、各々の専門分野を生かし、研鑽しあいながらケアマネジメントの質の向上に努めることができた。

職員の入れ替わりにより実績件数が伸び悩んでいたが、平成30年9月末で閉鎖する近隣居宅介護支援事業所からのケースを受け入れ、2割程度アップすることができた。

## 2. 利用者との目線を合わせ、ニーズに合った必要とされるサービス提供ができる人材育成、相互共有を図る



平成30年4月より、質の高いケアマネジメントの提供として特定事業所加算Ⅱを算定し、増収に結び付けることができた。また、週1回以上定例会議を開催し、事例検討や勉強会を通して学びを深めることができた。

## ③ 今後の課題

1. 新人ケアマネジャーの育成を継続し、一人当たりの担当件数35件を目指す。
2. より質の高いケアマネジメントを提供する事業所として特定事業所加算Ⅱを維持する。

(文責：主任 和田 真樹)

## ● ホームヘルパーステーション高知

## ① 概要

所属長名：	管理者・サービス提供責任者
	野町 喜代
構成職員：	主任・介護福祉士
	(管理者・サービス提供責任者) 1名
	介護福祉士(他部署兼務) 1名
	介護基礎権研修1級修了 1名
	2級ヘルパー 1名
	合計人数 4名

## ② 活動内容・目標に対する達成状況

1. 平成30年度の介護報酬改定に伴い加算や個別計画の見直しを行い、利用者一人当たりの単価変動が可能であるが見直しを実施した。加算に変更はなかった。個別計画ではサービス内容の一部追加や変更があり「生活援助」から「身体介護」に変更となったケースが1件あった。その他の利用者は



該当しなかった。

2. 訪問先では職員1名が援助を実施している。その際に対応方法に困ったケースなどが発生した場合、他の職員の実施状況を見ることができないなど、一人で抱え込むことも少なくはない。ケア提供の質確保のために他部署での技術研修を計画的に実施している。月のスケジュールを計画した際、技術研修や院内研修を行うようにした。拒否がある利用者への声の掛け方や入浴介助・排泄介



助の見学や実施など自分以外の職員の動きを見て学ぶことができています。研修時に当事業所利用者がショートスティやデイを利用中のこともあり、自宅とはまた違った表情が見られることもある。

### ③今後の課題

1. ケア提供の質確保は継続しながら、少人数運営を生かした対応をしていく。少人数であることを強

みとし、情報の共有や利用者からの援助振替などは柔軟な対応を行う。

2. 在宅での防災について、事務所業務・移動時・訪問先での援助時など場面がさまざまである。その都度職員の動きが異なってくる。防災について検討し対策を整える。

(文責：主任 野町 喜代)

## ● デイサービスいろは

### ①概要

所属長名：竹口 伸也

構成職員：看護師・機能訓練指導員兼務	3名
理学療法士・機能訓練指導員	1名
介護福祉士・生活相談員兼務	3名
介護福祉士	3名
看護助手	2名
看護助手・運転手	1名
合計人数	13名



### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 細やかな個別ケアの工夫と特色のある事業所展開を行い、介護報酬改定による変化に対応していく。総合事業の利用者の卒業を視野に入れたサービス展開を行う。

利用者の生活状況に合わせたサービス提供とものづくり（創作活動）を特色とした取り組みは継続している。新たに理学療法士を1名配置することで、利用者各々の状態を維持するだけでなく、「できること」を増やし、向上できるケアに取り組んだ。総合事業の利用者の卒業を視野に入れて活動していたが、卒業後の生活の質の維持の調整がうまく行かず、卒業に至っていない。

利用者の登録人数や利用実数は前年度と変わっていないが、延べ人数は減少している。在宅での転倒や体調の悪化により、利用休止となった方や、当日の体調不良などでのキャンセルもあり、年間の平均利用数は22.9名/日（利用率76.3%）と目標の85%には届いていない。

2. 地域とのつながりを大切にし、施設開放やコミュニティに根差した活動を行う。

地域への開放として「サロン・ド・いろは」は継続して年間12回予定通りに行い、毎回、8～9名の参加者がいる。参加者はいろはの周辺に住んでいる方が多く、年間を通して継続した参加をされ

ている。10月の「一宮交番ふれあいまつり」、3月の「認知症予防カフェ」に職員を派遣し、荒川ころぼん体操の紹介など行うこともできている。

### ③今後の課題

1. 開設10年を過ぎ、ものづくりを特色としてきたが作ることに目的となってしまっていた。原点である、ものづくりを通じた「自立支援」や「社会参加」につながる活動に立ち戻り活動する。またサービス提供の中で、利用者がお客さまになってしまっている部分があり、利用者各々の能力に合わせてデイサービスの中での役割を持っていただき、デイサービスの中での利用者の自立→自宅での自立につながる活動を平成31年度の目標としている。
2. 開かれた地域の中の事業所として、毎月第4日曜日の「サロン・ド・いろは」を中心に地域活動は継続して行っていく。

利用者が住み慣れた自宅や現在住んでいる地域で継続して生活ができるように、デイサービスの中だけでの支援ではなく、地域資源の発掘や関係づくりを行うことで、利用者の心身の自立だけでなく社会的自立も視野に入れた支援を行う。

(文責：管理者 竹口 伸也)

## ● グループホームいろは丸



### ①概要

管理者	森岡 明美、弘瀬 志津代
構成職員	管理者・介護支援専門員 1名
	管理者・介護福祉士 1名
	計画作成者・介護福祉士 1名
	介護福祉士 11名
	看護助手 5名
	合計人数 19名



### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. いろは丸の理念でもある「その人らしさ」を尊重した生活環境が提供できるよう、担当者を中心に常に問題意識をもって業務に取り組み、必要に応じてカンファレンスを行い、リアルタイムでケアの実践に生かせるようプランの見直しを行ってきた。
2. コミュニティの一員として地域とのつながりが持てるよう、地区のコミュニティ会議への参加や一斉清掃、集会などに参加し地元の方との交流を深め、災害などの緊急時に協力し合える体制が築けるよう取り組んできた。
3. 個々の職員で自己研鑽しようとする意識は高く、院外では認知症介護実践者研修やこころのケアサポーター養成研修、ボランティアコーディネーター研修などに参加ができた。院内でも在宅部研修に参加し、参加できなかった職員への伝達講習を行うことができた。

### ③今後の課題

昨年度に引き続き、入居者の出入りが多い1年であった。一旦入院されると、退院の目途が立たず長期入院の見込みにより退居となるケースが多かった。平均年齢が89歳以上、90歳代の利用者が5割以上を占め、現在の入居待機者の方も90歳を超えている方が多く見られる。入居者の安定を図るため、より一層の健康管理に留意し重症化させない対応を心掛け、入院による退居者の減少を目指したい。

あと一つ、日本全国ありとあらゆるところで地震・大雨による被害をテレビなどで目にするが、高齢で歩行も不安定な利用者を24時間お預かりしている施設として、利用者の安全を確保するために備えておくべきことや実際の現場での対応の仕方など、利用者個々の身体状況に合わせた計画や対応策を具体的に割り出し、ご家族・本人への安心につなげていく。

(文責：管理者 森岡 明美)

## ● 高知市北部地域高齢者支援センターいっく出張所



### ①概要

いっく出張所は、高知市より委託を受け、一宮・薊野地区のおおむね65歳以上の方およびそのご家族を対象に、総合相談・介護予防・地域のネットワークづくりに関する業務を行っている。

【担当地区】平成30年4月1日現在

	65歳以上世帯数	独居高齢者	65歳以上人口	高齢化率
一宮・薊野(重倉・久礼野を含む)	4,859世帯	2,253人	6,574人	25.64%

構成職員	看護師／介護支援専門員	1名
	介護福祉士／介護支援専門員	1名
	合計人数	2名



相談対応延件数は、平成29年度の1,907件に対し、平成30年度は2,645件となり、738件増加。来所相談者も平成29年度の49件に対し、平成30年度は114件となり、65件増加した。地域の体操会場およびサロン会場の他、地域健康講座での相談窓口を設置した。

介護保険サービス利用の他、地域ボランティアや地域資源へのつなぎ支援も行い相談支援につなぐこ

### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域の相談窓口としての機能の充実を図る

とができた。

## 2. 地域活動・社会活動の促進

いきいき百歳体操の継続支援や地域の会合、各会議に出席。ネットワークづくりや介護予防の啓発を行い、平成30年度の活動目標は達成できた。

また、高知市健康増進課主催、認知症サポーター養成講座が始まって以来初めて児童クラブでの講座開催があり、出張所も協同参加し寸劇を行い、テレビや新聞にも取り上げられ、啓発できた。さらに、医療介護地域連携として三愛病院院内研究発表会で支援センター出張所の活動発表をし、具体的な業務内容を周知できた。

今後も地域住民、施設、市社協、自助グループなどの関係機関と連携し、地域活動の情報収集や提供、参加、居場所づくりに貢献していく。

## 3. 介護予防に関する知識の普及啓発や地域の活動へのつなぎ支援

ミニデイやいきいき百歳体操会場などで、介護予防や普及啓発に関する講話を、今年度は全体操会場19会場で開催。その他、地域健康講座、自助グループの場で普及啓発に努めた。

## 4. 地域住民の認知症に対する理解促進や認知症を支えるネットワークの構築

地域ケア会議で、認知症の独居高齢者を地域でどう支えていくか、住民を巻き込んだ支援を検討し、展開した。また、一宮ふれあいカフェでは地域の参加者やボランティアの参加者と認知症について意見交換ができた。さらに、市老連一宮ブロックの総会では認知症についての講演を行い、事例を披露、地

域住民の認知症に対する理解促進に貢献できた。

### 【相談支援業務実績】

相談支援(延べ)回数	訪問	来所	電話	同行	会議
2,645	800	130	1,704	6	※12

※地域ケア会議参加回数

### 【地域住民のネットワークづくりの実績】

介護予防啓発回数	老人クラブ・ミニデイ	コミュニティー会議	認知症カフェ	地域の防災関連	介護施設の運営推進会議	その他
45	4	11	11	1	19	60

## ③今後の課題

相談窓口の質の向上

今後も引き続き地域に積極的に出向き、地域の社会資源の活用、地域力のつながりと助け合いの強化、個人の自立を支援していく。

また、今年度は高知市地域包括支援センター運営業務委託の募集があり、応募したところ採択された。令和2年2月1日より圏域に布師田・重倉・久礼野地区を加えて、地域包括支援センターとして運営がスタートし、業務として新たな内容も追加となるため準備を怠らず円滑に移行できるよう取り組んでいく。

(文責：高知市北部地域高齢者

支援センターいっく出張所担当

下本 幸治)

# 老人保健施設あうん高知

## 概要

施設長 細木 秀美



### ①概要

施設長：細木 秀美  
副施設長：小松 雅理

### ②活動内容

平成30年4月は、前年に介護保険法の一部改正で、老人保健施設（以下、老健）の役割が明確化され、その施行と併せ、医療・介護報酬のダブル改定でスタートした。老健は5つに大別されることとなり、4月当初あうん高知は、加算型老健としてスタートを切った。

その後、入所の皆さまのニーズに応えつつ職員一丸となって在宅支援に努めた結果、9月より在宅強化型という一つ高い基準を取ることができた。年間を通して稼働率94～95%で推移し、入所については施設基準変更に伴い増収となった。

通所では、新たに追加された加算算定に努めるとともに、新規利用者獲得に向けてお試し利用などを積極的に受け入れたが、新規契約以上に入院などによる休止や終了が続き、減収となった。ただ、リハビリマネジメントなどの関わりにおいては、多職種でしっかりとアプローチし、数例の卒業ケースを送り出すことができた。

身体的拘束適正化・虐待防止などに関する対応では、平成13年から続く身体拘束に関する取り組みを再構築し、新たな指針の策定および委員会の立ち上げを行っ

た。委員会は定期および臨時的に開催し、必要な研修会の開催や行政からの通知文書の読み合わせなどを含め、高齢者の尊厳を守るために検討を重ねている。

県内にある34の老健施設の内、約9割が会員である「高知県介護老人保健施設協議会」の会長および事務局施設となったことから、老健の質向上や災害対策などに一層注力し、高知市地域防災推進課などの協力で、福祉BCP策定に向けての合同研修会などを企画運営した。また人材確保と育成定着、老健の安定経営などについては、全体課題として今後も情報交換や連携体制を強化していく。

地域活動・地域貢献については、昨年度同様に地域包括ケアや地域防災に係る会議などに参加し、地域住民とともに活動する機会が多かった。行政、近隣の福祉避難所施設との連携もでき、顔の見える関係性づくりを今後も推進していく。住民力を削ぐことなく、地域のコーディネーター、支援者としてよりよい関係性づくりに努める。

（文責：副施設長 小松 雅理）

## ● 入 所

### ①概要

病棟形態：介護老人保健施設  
長期入所、短期入所  
病床数：66床  
所属長名：フロアマネージャー  
嶋崎 由季  
構成職員：看護師 3名  
准看護師 5名  
介護福祉士 19名  
看護助手 6名  
介護支援専門員 2名  
支援相談員 3名  
理学療法士 3名  
言語聴覚士 2名  
合計人数 43名



### ②平成30年度 目的・目標

1. ベッド稼働率95%以上、在宅復帰・在宅療養支援等指標60以上
2. 看護・介護サービスの質向上

### ③目標に対する取り組み

1. 年間の平均ベッド稼働率は昨年度とほぼ同じ94.4%で、目標には及ばなかった。

申請施設への入居や体調不良による入院など予定外の退所が発生した際、次の受け入れ調整が追い付かず数日間ベッドが空いたままになることがあり稼働率に影響したと考える。

稼働率を上げるために、在宅で生活している方のリハビリや介護者の休息を目的とした入所を2～3カ月間隔で計画し、一つのベッドを複数名で利用するよう調整した。これにより、施設側は計画的なベッドコントロールができ、介護者は再入所時期の目途がつくことで在宅介護に対するモチベーションを維持することができた。在宅復帰率は4月の60.0%から12月には77.8%までアップ、その後も年度末まで70.0%以上維持できた。

また、平成30年度の介護報酬改定により、老健は在宅復帰・在宅療養支援等指標（最高値：90）のポイント数によって、基本型・加算型・強化型・超強化型・その他型の5つの種類に分類された。当施設は加算型としてスタートを切り、毎月のポイント数を増やすよう取り組んだ結果、9月からは報酬単価の高い強化型に移行できた。

2. 看護・介護サービスの質向上

昨年度に引き続き、ケア内容の検討や介助方法の統一を目的とした個別ケアカンファレンスの実施

に取り組んだ。昨年度の取り組みを通して、職員自身がカンファレンスの必要性やその効果を実感したことで、今年度はさらに受け持ち職員発信によるカンファレンス開催が増えた。

職員によって課題への気づきやカンファレンスのコーディネート力に差もあるため、管理職や介護支援専門員がサポートしながら実施した。

また、強化型老健は全入所者に対する週3回の個別リハビリが必須要件となっているため、7月からリハビリ職員の配置数を増やし要件を満たすよう取り組んだ。言語聴覚士も配属され、言語や摂食嚥下に関する評価や訓練も充実した。

各種マニュアル遵守のための取り組みとして、配薬・手洗い・接遇などに関する他者評価のほか、介護業務を中心とした手順書の作成にも取り組んだ。

全国介護老人保健施設大会への参加、災害対策に関する研修や訓練への参加、家族会総会・和っしょい皆来い交流会の開催、ボランティアの受け入れなどを行った。

### ④次年度の課題

1. ベッド稼働率95%以上、在宅復帰・在宅療養支援等指標60以上
2. 看護・介護サービスの良質なケア提供

（文責：フロアマネージャー 嶋崎 由季）

## ● 通所リハビリテーション デイケア・ファイト

### ①概要

所属長名：三浦 恵子（介護主任）

構成職員：看護師	1名
准看護師	1名
介護福祉士	5名
ヘルパー	3名
社会福祉士	1名
理学療法士	2名
作業療法士	1名
運転手	1名
合計人数	15名

### ②平成30年度 目的・目標

1. 介護報酬改定に対応したケアの展開を行うことで、稼働率を平均70%にする
2. 多職種連携を強化しそれぞれの専門性を生かし、個々の利用者・家族のニーズに沿ったサービスの提供を行う
3. 地域の他のサービス事業所との連携を強化し地域活動への参加をしていく



### ③目標に対する取り組み

1. 利用者の入院や体調不良による当日のキャンセルなども多く、平均稼働率は53.5%と目標値を達成することができなかった。

利用者の高齢化や中重度の介護者数が増えており入院や入所、他事業所への移行による終了者も多かった。

デイケアの利用目的にレスパイト要素を含む利用者も多く、延長利用サービスや送迎時間の調整など行い家族の希望にも添えるよう対応を継続している。

2. 利用者や家族の高齢化に伴い、レスパイト機能を求められることが増えており在宅訪問や自宅での介助方法について助言できる体制作りを継続していく。  
リハマネⅢの算定を行い、デイケアの「卒業」の目標を継続することができ、2019年度から「社会参加支援加算」を算定することができている。
3. 一宮地域の通所サービス意見交換会に参加し、情報交換を行った。
  - ・地域活動では、9月に一宮ふれあいセンターのミニデイに参加し講師として参加する。
  - ・10月 認知症カフェ講師として参加する。

#### 4 次年度の課題

1. 通所リハビリの利用者を1日平均22名とし、新規利用者の増加を図る。
2. 多職種連携を強化しそれぞれの専門性を生かし、通所リハビリとしての役割を認識し「卒業」に向けた取り組みを継続する。
3. 自己研鑽を行い、研修への参加を積極的に行う。
4. 地域の他のサービス事業所との連携を強化し地域活動への参加をしていく。

(文責：介護主任 三浦 恵子)

# 委員会

定例会	経営会議
	運営会議
	医局会
全 体	医療安全管理委員会
	安全衛生委員会
	リスクマネージャー委員会
	院内感染防止対策委員会
	医療ガス安全管理委員会
	防災委員会
	倫理と権利の検討委員会
	薬事委員会

全 体	褥瘡対策委員会
	栄養委員会
	診療録管理委員会
	広報委員会
	サービス向上委員会
	未収金管理委員会
	臨床検査適正化検討委員会
	輸血療法委員会
	入院相談・ベッド調整会
	院内教育委員会

看護部内	看護師長会
	看護副師長主任会
	介護主任会
	看護部業務報告会
	看護部教育委員会
	看護部感染防止対策委員会
	看護部接遇委員会
	看護部褥瘡対策委員会
	看護部リスクマネージャー委員会
	虐待防止・身体的拘束適正化委員会
	エンゼルケア検討委員会

## ● 医療安全管理委員会

### 1 平成30年度 目的・目標

1. 院内巡回を定期的に行い、現場のリスク状況を把握、改善することで医療の質向上および患者・職員の安全を確保する
2. 研修会の開催により、安全管理に関する基本方針や医療事故予防および再発防止方策の基礎知識の向上を図り、事故を未然に防ぐ組織的な基盤を作る
3. 医療事故発生時には、適切かつ迅速な対応を行い、被害を最小限にする。また、再発防止に向けた取り組みをする

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容
  - 1) 委員会開催：毎月 第4水曜日
  - 2) 院内巡回：毎週月曜日（フロアごとに実施し現場へフィードバックを行う）
  - 3) 医療安全管理マニュアルおよび、その他マニュアルの見直しと作成
  - 4) 研修会の開催  
「人間は間違えるもの」  
平成30年7月24日・7月27日 参加者(伝達講習含む) 233名(参加率 82.04%)  
「三愛病院安全管理指針・安全への取り組み事例」「医療安全地域連携について」  
平成31年1月30日・2月4日・2月15日 参加

者(伝達講習含む) 215名(参加率 77.6%)

### 2. 目標に対する達成状況

院内巡回の継続により、各部署のリスク状況は改善している。

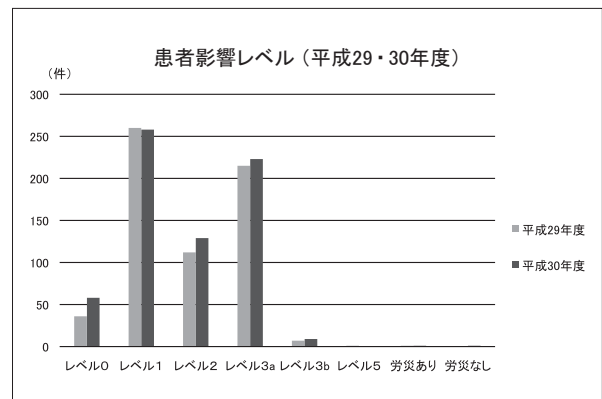
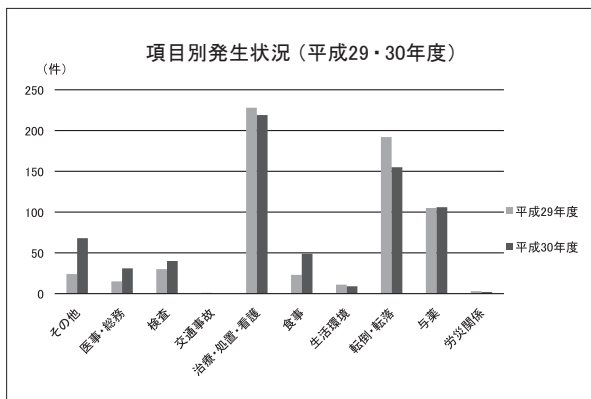
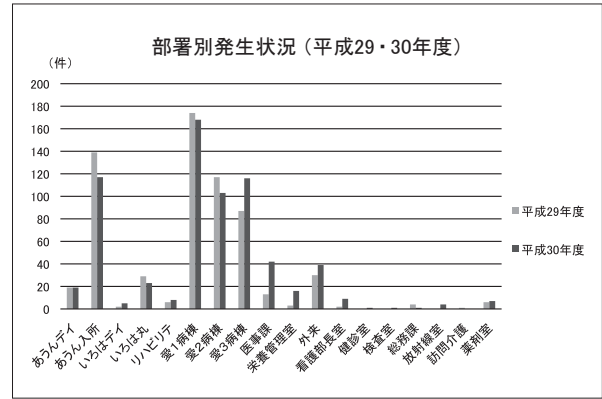
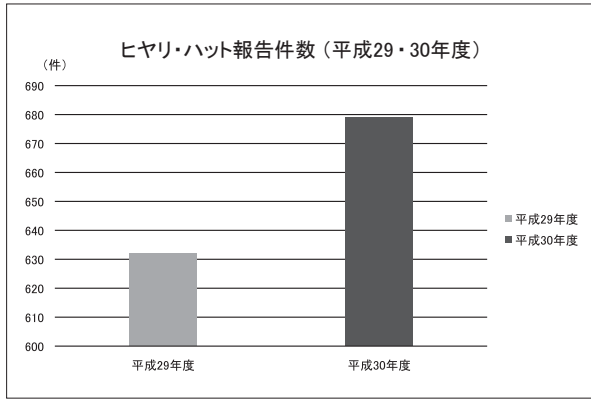
ヒヤリハット事案については、昨年度に引き続き与薬に関して重点を絞って分析・対策を行った。投与直前の確認が確実に行われていれば防げる事案が多いが、夜勤明けの集中力が低下しているうえに業務量が増える朝の与薬業務で、タイミングの違った薬剤を同時に取る事案があり。業務の煩雑さから確認作業を怠ったり、確認したつもりになったりして発生している。そのため、昼の薬袋にクリップをつける対策を行い、タイミングが違う薬剤の区別が一目でつきやすいようにした。以降、取り間違いはなくなっており効果が得られている。

そのほか事案によって関係部署参加のWGで改善に向けた取り組みをした。マニュアルについては、麻薬WGを発足させ麻薬マニュアルを大幅に見直した。また、救急カートおよび病棟在庫薬品についてもWGで見直し変更を行った。

5月より医療安全対策地域連携加算Ⅱ算定開始し、チェックシートで自己評価を行うことで改善の必要な事項が明確にできた。また、加算Ⅰ施設の相互訪問を受け、他施設の取り組みを参考に具体的な取り組みへとつながられた。

研修会については、交代勤務のある部署や業務の都合上参加できにくい部署を考慮し、同内容を複数回行い参加率が上がるようにした。そのうえで各部

署の伝達講習も行った。今後も複数回研修を行うことで、参加しやすい状況を作り安全意識の向上および医療安全の醸成に努めていく。



(文責：管理者 戸田 里子)

## 院内感染防止対策委員会

### 1 平成30年度 目的・目標

- 院内感染の発生予防と感染症の拡大防止を図る。
- ICT活動を通して、感染防止対策を全職員で取り組む体制を作る。

### 2 活動内容・目標に対する達成状況

- 研修会の開催
- 手指衛生の遵守率向上のための取り組み（1患者当たり約10回）
- 感染報告（毎月）指定抗菌剤使用届け報告（毎月）週間細菌検査検出状況（週報）
- ICT活動（感染管理ベストプラクティスの参加・手順書作成、院内環境ラウンド）
- 職業感染予防対策（B型肝炎ワクチン接種）

研修会では、4月に入社オリエンテーションで感染対策指針について実施、6月集合研修「手指衛生

の基礎知識」参加率83.2%、10月集合研修「インフルエンザ対策・嘔吐物処理方法」参加率77.1%と、多くの職員に参加いただいた。研修を2部構成にすることで医師も80%以上の参加率となっている。

手指衛生の取り組みでは、看護部およびリハビリテーション課でアルコールの使用を積極的に行っており、1患者当たりの使用量は平均15回となっている。

今年度も全国的なインフルエンザの流行が見られた。院内でも罹患者が数名出たが、昨年作成した面会制限の基準やインフルエンザ対応マニュアルに追加して「抗インフルエンザ薬予防投与マニュアル」を変更。早期に対応を行うことで、アウトブレイクは防ぐことができた。

(文責：幹事 濱名 郁里)



## 褥瘡対策委員会

### ①平成30年度 目的・目標

- 褥瘡回診・定例会にてDESIGN-Rを用いた評価および検討を行い、褥瘡発生率1%以内・治癒率75%以上にする
- 予防活動

### ②活動内容・目標に対する達成状況

- 活動内容
  - 褥瘡回診 1回/月(第4火曜日)
  - 委員会開催 褥瘡回診翌日
  - 研修会開催 平成31年3月19日「褥瘡予防と治療としてのシーティング」  
平成31年1月22日「MDRPUと褥瘡処置」  
平成31年2月27日「局所陰圧閉鎖療法、陰圧維持管理装置」
- 目標に対する達成状況  
褥瘡発生者は15名、発生率0.7%で目標の1%以内を達成できているが、昨年より0.4P上昇してしまった。発生部位は仙骨部5名、足部4名、大転子

部3名、尾骨部2名、耳朶部1名でⅡ度での発見となっている。持ち込み褥瘡は10名で、7名が在宅からの入院であった。外来受診時に委員会と連携をすることで入院につなげることができ、内科と共診で形成外科医が主治医となるケースが3件あった。

“在宅患者訪問褥瘡管理料”を算定するため、看護師2名が研修へ参加し届け出を行った。MDRPU発生者は15名で昨年より6名増加し、年々増えている。原因としては点滴ルート系が7名と約半数を占めており、経鼻チューブ・バルンカテーテル・酸素マスクがそれぞれ2名ずつとなっている。ココロールによる予防が十分できていないため、使用方法の検討やその他の予防策を検討する必要がある。センサーマットや装具での発生もあった。

治癒率は76.0%で昨年度より11.8P上げることができた。今年度は、KCI社のVACシステムとスミス&ネフューのPICOシステムを導入し陰圧閉鎖療法の効果を確認することができた。また、拇指に発生した褥瘡に対して装具を作成するなどの新しい試みがあった。

### ■平成30年度 実績

	平成30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	総計
リスク患者数(名)	161	165	171	171	173	172	182	174	170	172	174	172	2,057
褥瘡保有者数(名)	4	4	3	1	3	1	0	6	8	5	7	7	
発生者数	総数	2	0	1	0	1	0	0	4	2	2	1	15
	率	1.2%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	2.2%	1.1%	1.1%	0.5%	0.7%
治癒者	総数	2	1	2	0	2	1	0	0	5	3	1	19
	率(月)	50.0%	25.0%	66.6%	0.0%	66.6%	100.0%		0.0%	62.5%	60.0%	14.2%	28.5%
MDRPU	発生数	0	1	0	2	1	0	4	1	3	1	2	15
	持ち込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	治癒数	0	0	1	1	2	0	2	2	1	1	2	12

- ・褥瘡でカウントしていた患者が血管性潰瘍に病名変更した場合は、発生時にさかのぼり発生者数・保有者数から除外する
- ・治癒者：月率=その月の保有者数に対する治癒率 年率=その年度の発生者・持ち込み者数に対する治癒率

(文責：副委員長 谷山 智砂)

## 栄養委員会

### ①平成30年度 目的・目標

- 入院患者さまの食事提供に係る事項について検討
- 栄養補助食品について検討

- ・副食の形態について検討
- ・濃厚流動食について検討
- ・自助食器について検討
- ・災害時の食事について検討

### ②活動内容・目標に対する達成状況

- 活動内容
  - ・行事食の検討と計画

### 2. 目標に対する達成状況

- 濃厚流動食を摂取されている患者さまの中で、液体の流動食が逆流して誤嚥性肺炎などを引き

起こす場合がある。これは、患者さまのQOLを落とすことになり十分な栄養効果も得られない。そのような患者さまに対応した濃厚流動食「粘度可変型流動食」について検討した。摂取時には液体で胃に入りHpが低下すると粘度が上昇し、液体から半固形状になる流動食である。その特性により逆流や誤嚥性肺炎が軽減されると考え採用となった。今後も患者さま一人ひとりの病状に応じた濃厚流動食を提供できるよう、定期的に製品の検討・試食を行いたいと考えている。

2. 摂食・嚥下障害のある患者さまに対して用いているゼリー状の栄養補助食品について見直し、検討を行った。これまで採用していた製品は、常温では液状であるため一度冷やし固めないでゼリー状にならないものであり、停電時には使用できない状態になるという問題点があった。近い将来起こりうると言われている大規模な地震に備え常温でもゼリー状の栄養補助食品を採用することとなった。

(文責：委員長 石山 由香)

## ● 薬事委員会

### ①平成30年度 目的・目標

医薬品の適正化並びに円滑化を図る。

### ②活動内容・目標に対する達成状況

平成29年度の採用品目数は812剤であったが、平成30年度は827剤となった。後発医薬品の採用品目数は177剤であり、後発医薬品の採用率は21.4%であった。また後発医薬品の使用率は年度末で75.7%であった。

平成30年度の新規採用剤数は19剤、限定採用剤数は10剤、削除薬剤数は27剤であり、そのうち、後発医薬品への変更剤数は13剤であった。しかしながら、平成29年度は後発医薬品の使用率は76.7%であり、平成30年度は75.7%であり若干であるが、使用率が低くなった。これは患者さまの持参薬が先発医薬品を持ち込むことが多かったことと、また当院で採用の無い医薬品であったと考える。

### ■平成30年度 薬事委員会 実績

	A	B	C	D
	新規採用剤数	限定採用剤数	削除薬剤数	後発変更剤数 (先発品削除)
2月21日	7	3	5	1
5月1日	1	2	3	4
7月5日	5	1	1	
10月4日	4	3	2	6
11月8日	2	1	3	2
総計	19	10	14	13

A+B 採用品目合計 29      C+D 削除品目合計 27

(文責：委員長 小野 正英)

## ● 安全衛生委員会

### ①平成30年度 目的・目標

1. 労働者健康の保持増進
2. 労災事故の防止、職場環境の改善
3. ストレスチェックの実施
4. ハラスメント研修会の実施

### ●平成30年度 4件

業務災害：4件 通勤災害：0件

労災事故発生件数は、前年度に対しほぼ横ばいであり、通勤災害はなかった。

・超過勤務削減についての取り組み  
超過勤務の多い部署に対し、委員会より所属長に改善するよう声掛けをした。また毎月の委員会では経過について話し合い、改善案を出し合った。その結果、所属長を中心に団結力が生まれ、一人ひとりの意識改革に成功し、前年と比較しほとんどの職員の超過勤務時間の削減につながった。

### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 毎月1回の委員会の開催と院内巡視
2. ・労災事故

●平成29年度 5件  
業務災害：5件 通勤災害：0件

しかし委員会内でももう少し削減できるのではないかとの意見が出され、来年度も引き続き経過について話し合うことになった。

### 3. ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により、労働者のメンタルヘルス不調を未然に防止する一時予防を目的とし実施。

委託先の細木ユニティ病院より送られてきた、組織診断報告書・部署ごとの組織別ストレス状況を各部署長に配布。

・調査対象者 248名

●受検者数：244名（受検率：98.4%）

### 4. ハラスメント研修会について

社会保険労務士の方をお招きし、「職場のワークハラスメント～働きやすい職場環境を目指して～」と題して研修会を実施した。

この研修を受けてのアンケートを集計し、各部署に配布した。

（文責：委員長 植田 宏平）

## ● 防災委員会

当委員会は、防災管理業務の適正な運営を図ることを目的とし、防災管理体制の整備、教育、訓練を行ってきた。

加えて平成29年6月よりWGを立ち上げ、三愛病院BCP策定に向けての取り組みをスタートさせた。同年9月には外部講師による「南海トラフ地震に向けた医療機関のBCPセミナー」を開催し、職員の大規模災害に対する恐れや備えを学んだ。これを基に平成30年度は、以下の取り組みを実施した。

平成31年度末にはBCP、災害アクションカードを使った院内災害訓練を目標に、BCP各論の作成をすすめている。

### 1 平成30年度の主な取り組み

- ①消防教育・訓練を実施した。
- ②BCP策定の第一ステップとして新たにWGを立ち上げ、BCPの総論部分作成を行った。
- ③災害時アクションカードの見直しを行った。
- ④BCP策定の第二ステップとして、新たに「本部」「救護病院」「在宅関連」の3WGを発足させ、とりまとめをスタートさせた。

（文責：小松 美紀）

## ● サービス向上委員会

当委員会は、患者さまから寄せられる苦情のほか、種々の病院サービス向上のための意見・提言を聴取し、患者さまに質の高い医療サービスを提供すること、また職員からも職場環境、患者サービス改善案などを意図的に収集し、働きやすい職場づくりに貢献することを目的に開催されている。

平成30年度の主な取り組みは以下になります。

### 1 平成30年度の主な取り組み

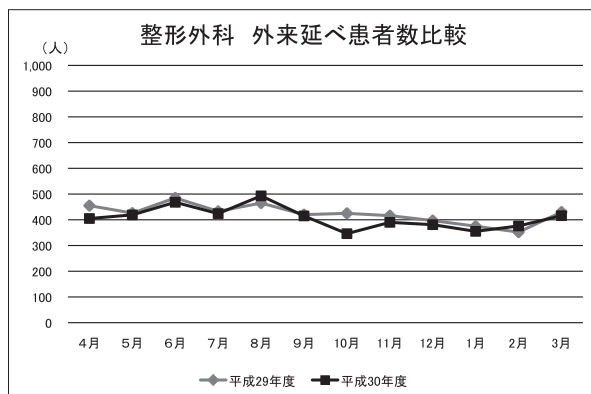
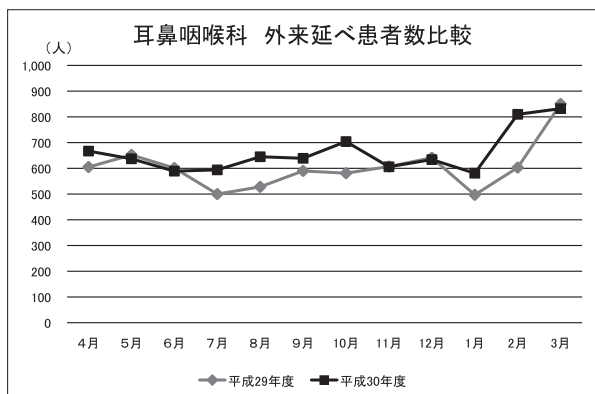
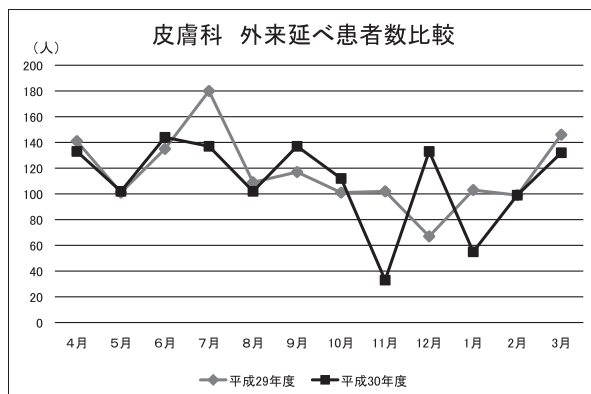
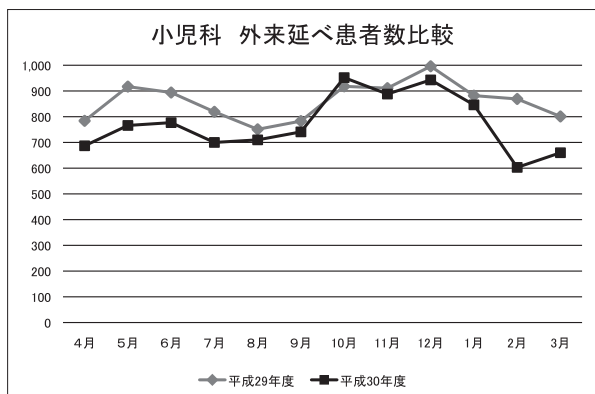
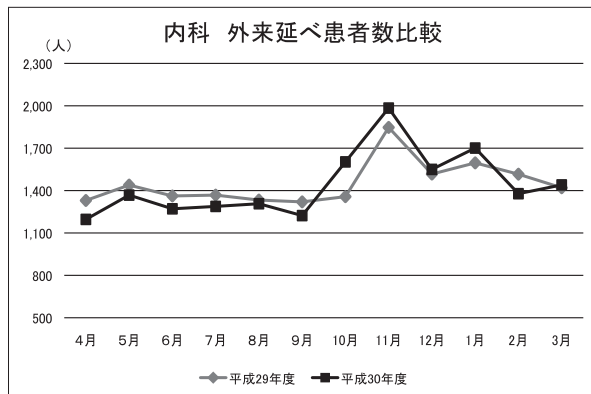
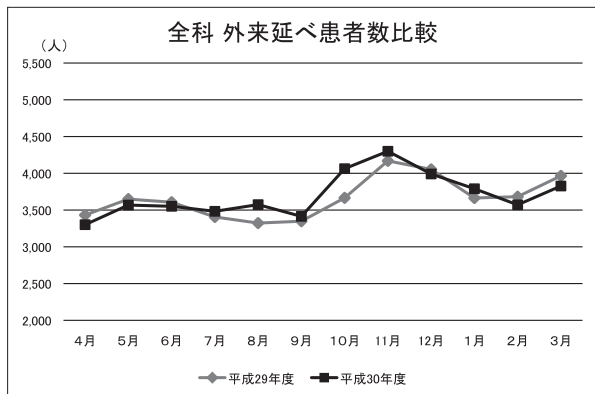
- ①ご意見箱の回収、対応、回答
- ②相談受付簿の検討、対応
- ③職場環境の改善、患者サービスの改善
- ④平成30年度退院アンケートの集計、報告
- ⑤平成30年度外来待ち時間調査の集計、分析
- ⑥ハラスメント研修の開催（安全衛生委員会との合同開催）

（文責：事務部長 植田 宏平）

# 診療部

## ■ 平成30年度 外来患者数統計

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実患者数(人)	1,988	2,116	2,108	2,070	2,058	1,990	2,162	2,036	2,159	2,402	2,273	2,256	25,618
延べ患者数(人)	3,301	3,568	3,551	3,483	3,574	3,414	4,063	4,300	3,991	3,790	3,571	3,827	44,433
平均患者数(人)	137.5	148.7	136.6	139.3	137.5	148.4	156.3	179.2	173.5	164.8	155.3	153.1	152.5
新患者数(人)	141	161	138	104	141	116	123	193	148	163	120	108	1,656



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院  
あつん高知

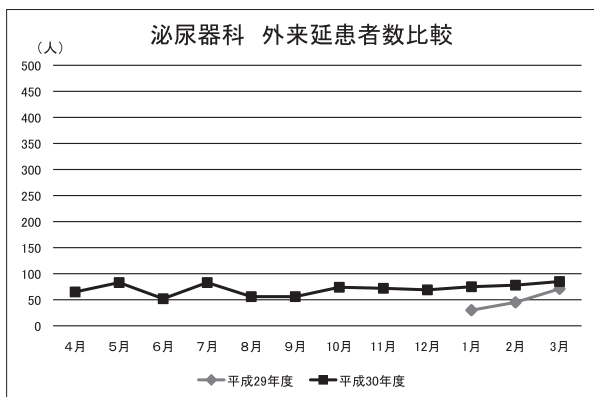
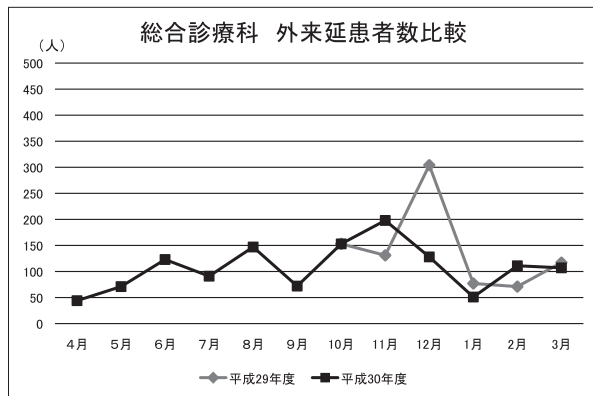
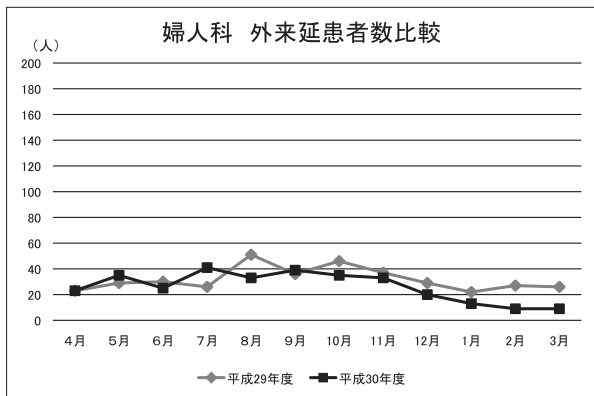
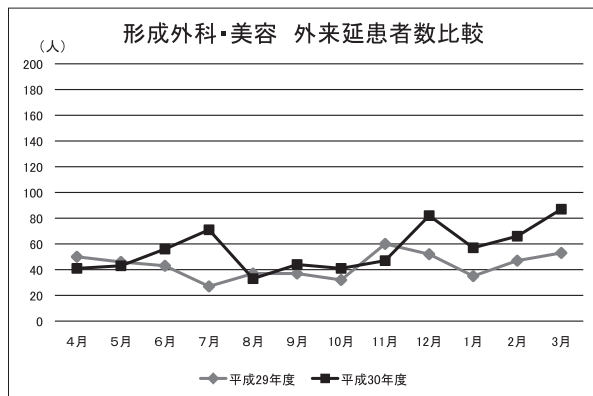
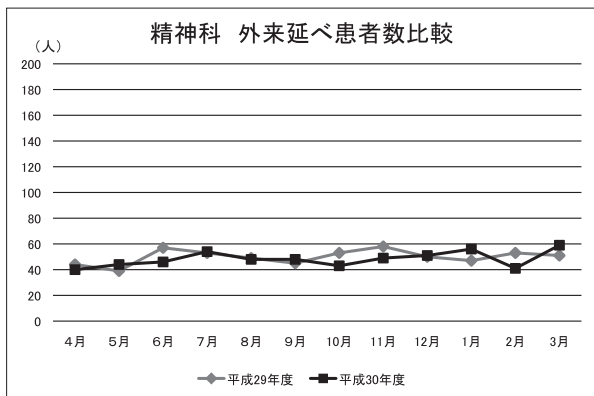
日高クリニック

本部

アドレス・高知

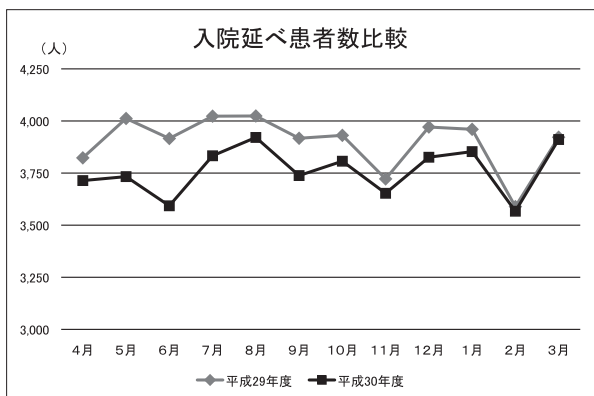
福寿園

積善会



■ 平成30年度 入院患者数統計

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	84.8	82.5	82.0	84.7	86.6	85.3	84.1	83.4	84.5	85.1	87.3	86.4	84.7
延べ患者数(人)	3,714	3,733	3,593	3,833	3,921	3,738	3,807	3,653	3,826	3,853	3,567	3,911	3,762
平均患者数(人)	123.8	120.4	119.8	123.6	126.5	124.6	122.8	121.8	123.4	124.3	127.4	126.2	123.7



# 看護部

## ■平成30年度 病棟別業務実績

### 愛1病棟（障害者施設等）業務実績

病棟形態	平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (53床)	稼働率(%)	82.1	80.8	76.1	78.7	78.8	77.5	77.2	75.1	74.0	72.7	79.0	76.3	77.4
	延べ患者数(人)	1,306	1,327	1,210	1,293	1,294	1,233	1,269	1,194	1,215	1,194	1,172	1,254	1,247
	平均患者数(人)	43.5	42.8	40.3	41.7	41.7	41.1	40.9	39.8	39.2	38.5	41.9	40.5	41.0

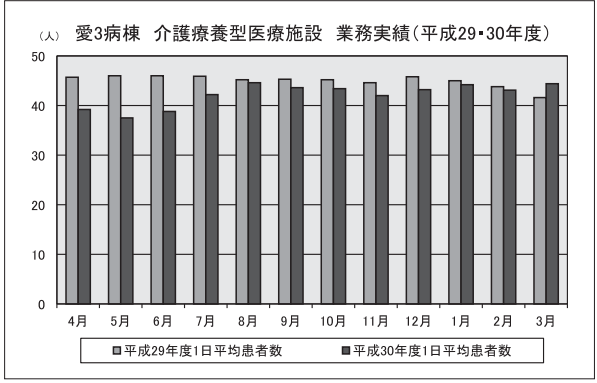
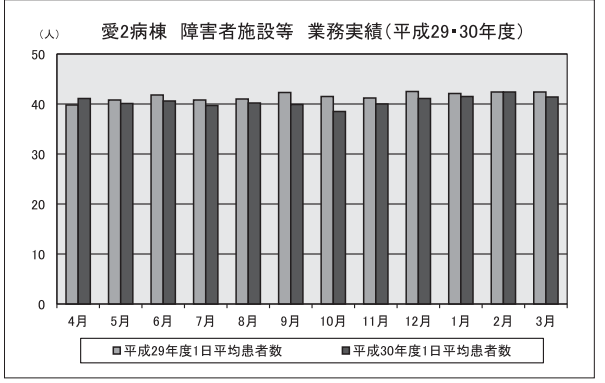
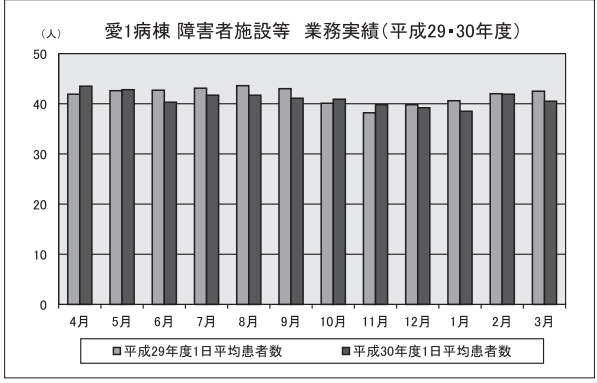
### 愛2病棟（障害者施設等）業務実績

病棟形態	平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (45床)	稼働率(%)	91.3	89.2	90.3	88.3	89.2	88.6	85.6	88.9	91.3	92.3	94.3	91.9	90.1
	延べ患者数(人)	1,232	1,244	1,219	1,232	1,245	1,196	1,194	1,200	1,273	1,288	1,188	1,282	1,233
	平均患者数(人)	41.1	40.1	40.6	39.7	40.2	39.9	38.5	40	41.1	41.5	42.4	41.4	40.5

### 愛3病棟（介護療養）業務実績

病棟形態	平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護療養 (48床)	稼働率(%)	81.7	78.1	80.8	87.9	92.9	90.9	90.3	87.4	89.9	92.1	89.8	92.4	87.9
	延べ患者数(人)	1,176	1,162	1,164	1,308	1,382	1,309	1,344	1,259	1,338	1,371	1,207	1,375	1,283
	平均患者数(人)	39.2	37.5	38.8	42.2	44.6	43.6	43.4	42.0	43.2	44.2	43.1	44.4	42.2

## ■病棟別1日平均患者数（前年度比）



# 医療技術部

## ■ 薬剤室 処方箋・服薬指導・検薬件数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来処方箋件数	15	14	23	21	10	16	17	6	20	82	54	11	289
外来処方箋件数(注射)	72	111	113	130	103	79	72	67	76	85	86	74	1,068
入院処方箋件数	1,677	1,436	1,458	1,892	1,756	1,500	1,654	1,608	1,938	1,548	1,576	1,653	19,696
入院処方箋件数(注射)	259	344	194	467	569	440	642	602	544	641	439	464	5,605
併設あうん高知 処方箋件数	289	352	324	342	370	306	319	306	377	305	305	308	3,903
併設あうん高知 処方箋件数(注射)	19	15	23	10	32	5	10	13	16	7	9	1	160
服薬指導件数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
検薬件数(持参薬)	5	11	13	9	11	7	11	15	12	14	8	10	126
併設あうん高知 検薬件数	13	11	17	10	10	7	17	7	10	10	11	72	195

## ■ 薬剤室 処方箋枚数

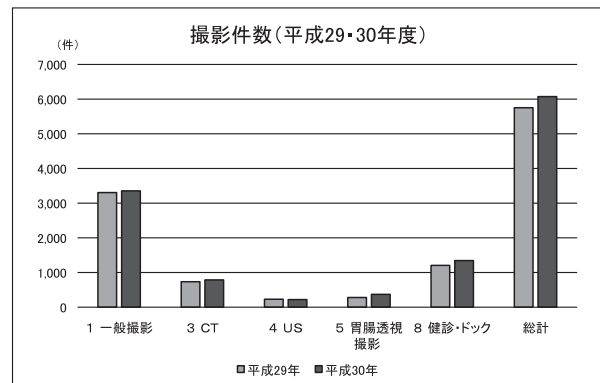
年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
平成29年度	200	1,197	7,325	4,996	2,044	140
平成30年度	253	1,029	6,621	4,214	1,678	124

## ■ 薬剤室 処方件数

年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
平成29年度	253	1,256	20,538	6,479	4,294	168
平成30年度	289	1,068	19,696	5,605	3,903	160

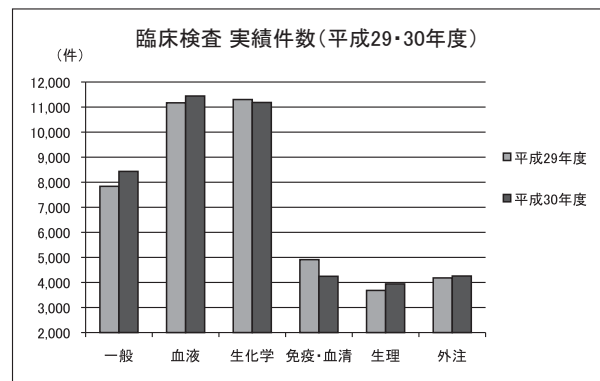
## ■ 放射線室 撮影件数

	平成29年度	平成30年度	前年度比
1 一般撮影	3,305	3,354	101%
3 CT	734	786	107%
4 US	229	219	96%
5 胃腸透視撮影	279	370	133%
8 健診・ドック	1,205	1,344	112%
総計	5,752	6,073	106%



## ■ 臨床検査室 検査業務実績件数

	平成29年度	平成30年度	前年度比
一般	7,837	8,433	108%
血液	11,170	11,442	102%
生化学	11,301	11,184	99%
免疫・血清	4,911	4,246	86%
生理	3,682	3,942	107%
外注	4,181	4,257	102%



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

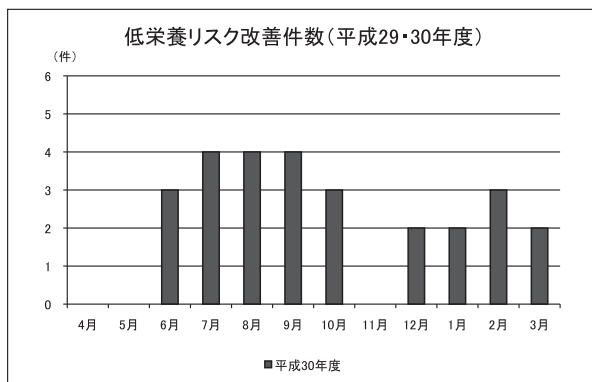
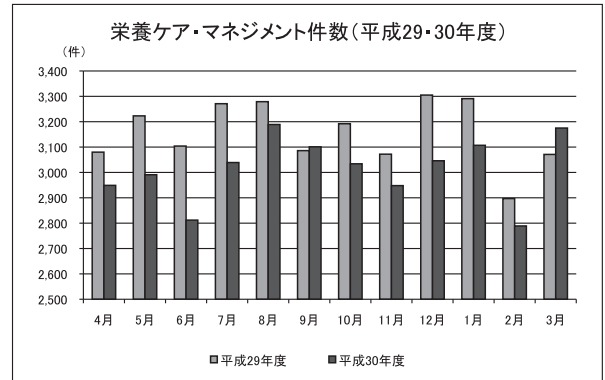
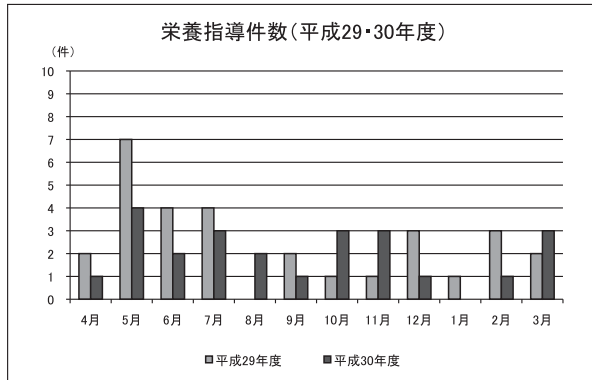
アドレス・高知

福寿園

積善会

■ 栄養管理室 業務実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
栄養指導	平成29年度	2	7	4	4	0	2	1	1	3	1	3	2
	平成30年度	1	4	2	3	2	1	3	3	1	0	1	3
栄養ケア・マネジメント	平成29年度	3,080	3,223	3,104	3,271	3,279	3,086	3,192	3,072	3,305	3,291	2,897	3,071
	平成30年度	2,949	2,991	2,812	3,039	3,189	3,101	3,034	2,948	3,046	3,107	2,789	3,175
低栄養リスク改善	平成30年度			3	4	4	4	3	0	2	2	3	2



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院  
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

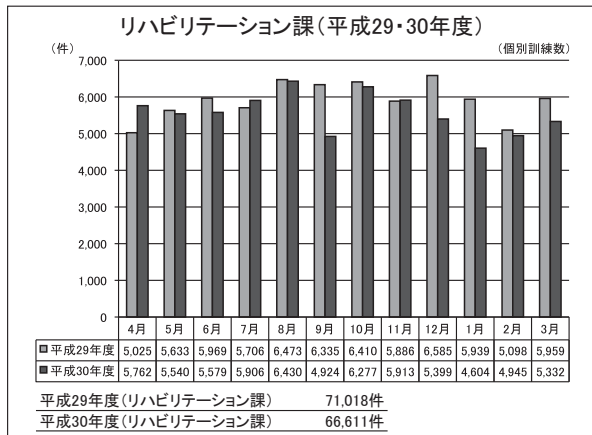
福寿園

積善会

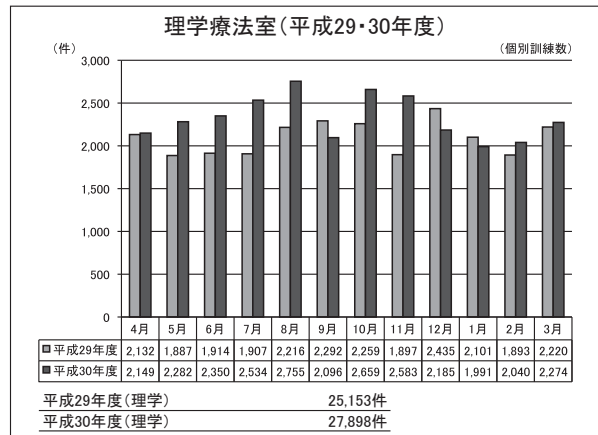


## ■ リハビリテーション課 業務実績

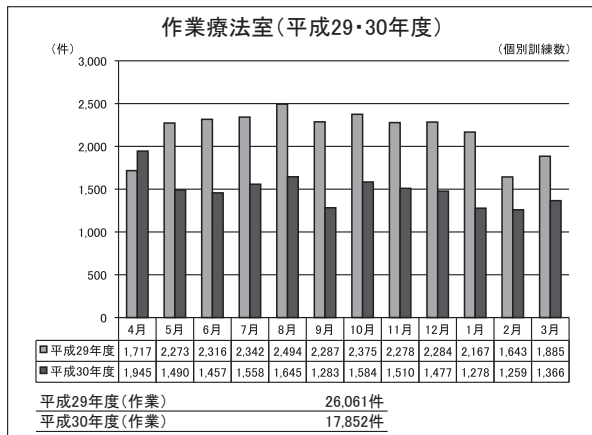
### ■ リハビリテーション課



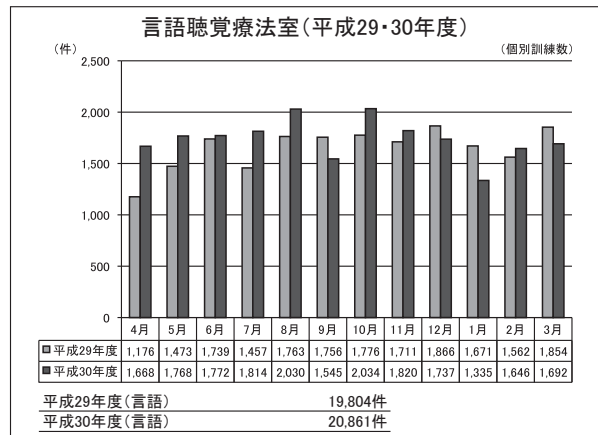
### ■ 理学療法室



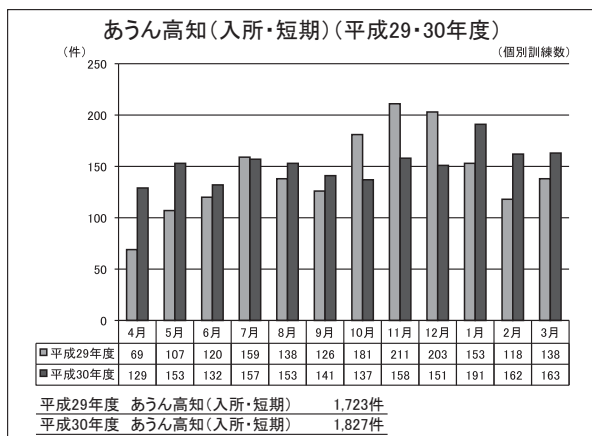
### ■ 作業療法室



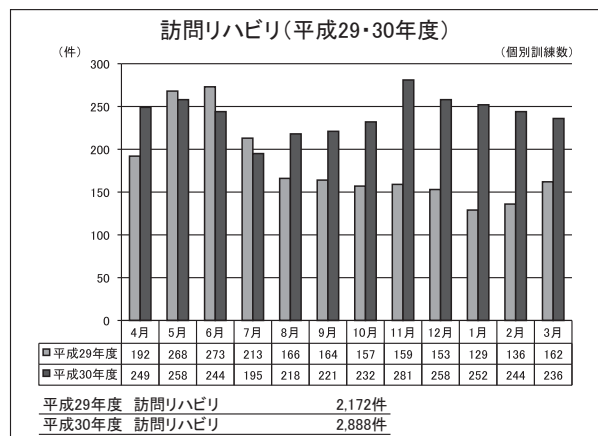
### ■ 言語聴覚療法室



### ■ あうん高知(入所・短期)



### ■ 訪問リハビリテーション



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

# 在宅部

## ■ 居宅介護支援事業所「一宮」 業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度	介護保険利用者数(人)	101	102	104	109	108	93	90	88	88	90	84	90	1,147	96
	介護予防利用者数(人)	11	11	11	10	10	6	2	3	4	4	4	5	81	7
平成30年度	介護保険利用者数(人)	89	89	89	85	90	102	117	112	109	109	105	107	1,203	100
	介護予防利用者数(人)	5	7	7	8	8	11	16	15	15	16	18	18	144	12

## ■ ホームヘルプステーション高知 業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度延べ回数(回)	120	133	148	136	143	130	160	154	176	156	156	164	1,776	148
平成30年度延べ回数(回)	173	149	168	163	140	128	144	135	135	147	127	125	1,734	145
平成29年度利用者数(人)	14	14	15	15	16	15	18	20	20	19	19	19	204	17
平成30年度利用者数(人)	21	21	20	19	21	19	18	17	16	18	20	19	229	19

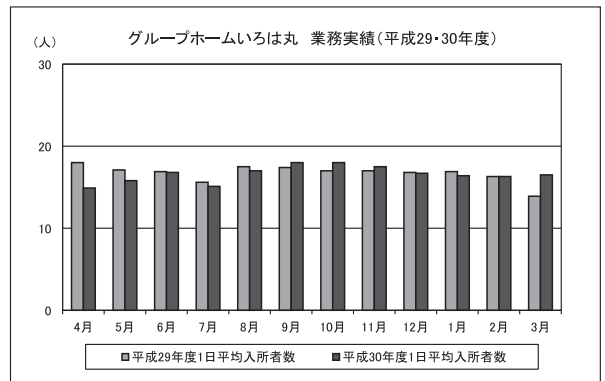
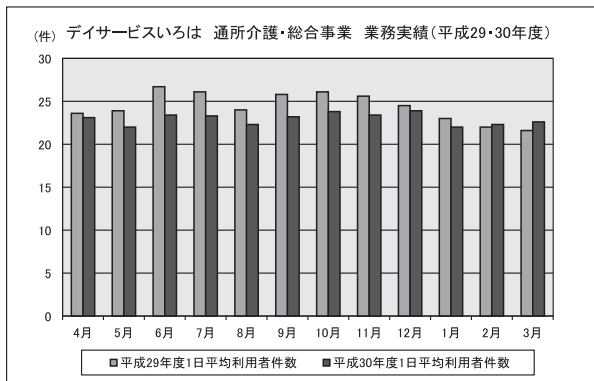
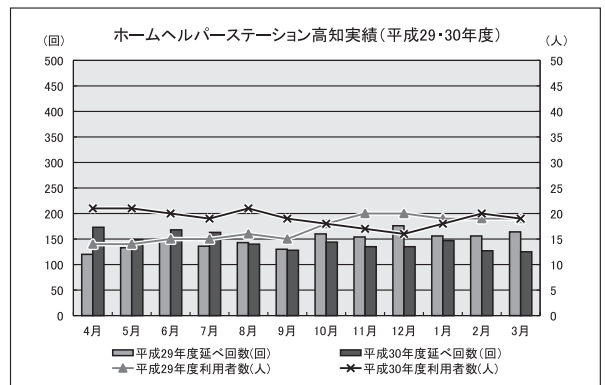
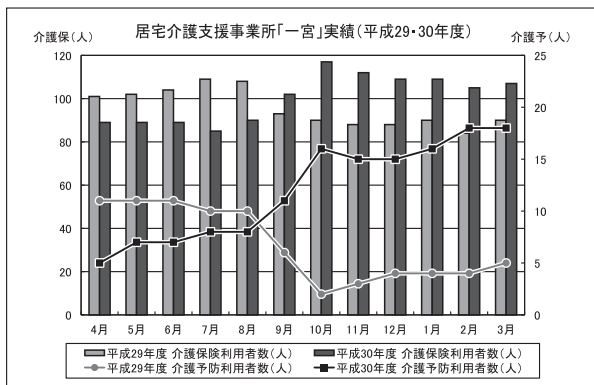
## ■ デイサービスいろは 業務実績

サービス種類：通所介護・総合事業

病棟形態	平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所介護・総合事業	稼働率(%)	76.9	73.5	78.1	77.8	74.4	77.2	79.3	77.9	79.6	73.5	74.2	75.4	76.5
	延べ人数(人)	577	595	609	607	603	579	642	608	621	551	534	588	593
	1日平均利用者件数(件)	23.1	22.0	23.4	23.3	22.3	23.2	23.8	23.4	23.9	22.0	22.3	22.6	22.9

## ■ グループホームいろは丸 業務実績

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	83.0	87.8	93.5	84.1	94.4	100.0	100.0	97.2	92.8	90.9	90.7	91.4	92
延べ入居者数(人)	448	490	505	469	527	540	558	525	518	507	457	510	505
1日平均入居者数(人)	14.9	15.8	16.8	15.1	17.0	18.0	18.0	17.5	16.7	16.4	16.3	16.5	16.6



# 老人保健施設あうん高知

## ■ あうん高知 業務実績

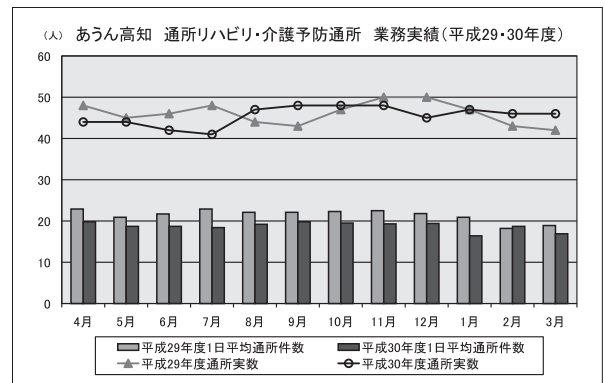
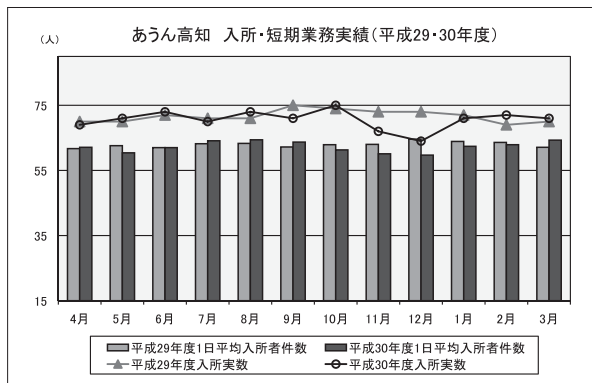
サービス種類：入所・短期

病棟形態	平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所・短期	稼働率(%)	94.0	91.5	94.0	97.1	97.6	96.5	92.9	91.1	90.4	94.6	95.2	97.4	94.4
	延べ患者数(人)	1,862	1,873	1,861	1,986	1,996	1,911	1,900	1,804	1,850	1,935	1,760	1,993	1,894
	1日平均入所者数(人)	62.1	60.4	62.0	64.1	64.4	63.7	61.3	60.1	59.7	62.4	62.9	64.3	62.3
	在宅復帰率(%)	60.0	61.5	60.0	64.0	68.0	75.0	75.0	76.7	77.8	76.7	75.9	73.1	

## ■ あうん高知 業務実績

サービス種類：通所リハビリ・介護予防通所

病棟形態	平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所・ 介護予防通所	稼働率(%)	56.6	53.4	53.5	52.5	54.8	56.4	55.8	55.3	55.4	46.8	53.5	48.2	53.5
	延べ患者数(人)	495	505	487	478	518	474	527	503	485	393	449	439	479
	1日平均利用者件数(件)	19.8	18.7	18.7	18.4	19.2	19.8	19.5	19.3	19.4	16.4	18.7	16.9	18.7



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

# ▶院内発表会

## 三愛病院 平成30年度 院内研究発表会

開催日：2018年7月21日(土)  
開催時間：13：30～15：50  
開催場所：三愛病院 5階会議室

演題・内容	発表者○
開会の挨拶	院内教育委員会委員長 橋詰 稔
オリエンテーション	司会：森田 晃平
演題発表Aグループ	座長：森岡 明美
三愛病院における医師事務作業補助者の役割	看護部長室 ○入交 菜央、竹倉 恵
査定ZERO ～医事課の挑戦～	医事課 ○籠尾 和花、西村 秀晃、小田 雅代 鍵山 沙也加、小原 摩美
これからの退院支援 ～当院の取り組みについて～	医療相談室 with B ○澤田 恵里、高岡 桜 山本 明公子、戸田 里子、谷山 智砂、中平 好昭
知ってください！支援センター ～実録！汗と涙の日常から～ ◆最優秀賞◆	高知市北部地域高齢者支援センターいっく出張所 ○池内 智子、川添 香織
演題発表Bグループ	座長：栄田 美智子
いつもそばに、手指衛生Part 2	愛1病棟 ○夕部 弥生、山本 優子、市原 美由紀
「臨床美術」と出会って	DSいろは ○大野 裕美
病児保育における誤薬防止への取り組み	病児保育室愛あいルーム ○千頭 明子
当院の高知県糖尿病療養指導士(CDE高知)に対する意識調査	外来 ○濱名 郁里
総評、審査結果発表・表彰	院長 深田 順一

## 第16回 三愛病院 看護部発表会

開催日：2018年12月8日(土)  
開催時間：13：30～15：30  
開催場所：三愛病院 5階会議室

演題・内容	発表者
開会	司会：夕部 弥生
一般演題	座長：中澤 綾那
(1) ターミナル期の患者ケアで私たちが学べたもの ～その人らしい最期とは～	愛3病棟 高岸 由佳
(2) 妻を支える「いごっそう」 ～私たちにできること～	通所リハビリ 三浦 恵子
(3) スキン・ケア減少に向け ～入浴前ミーティングを取り入れて～	愛2病棟 武島 翠
(4) 百読は一見に如かず ～在宅復帰支援にiPadを使用した情報共有の効果～	あうん高知 武政 龍弥
(5) 外来頑張った大賞のゆくえ	外来 印藤 るみ
プレゼン発表	座長：濱名 郁里
(6) 看護一年目を終えて	愛3病棟 種田 和美
(7) 自身を振り返って ～日々の経験から学んだこと～	愛1病棟 山崎 香
(8) がん患者の終末期看護から学んだこと	愛1病棟 朝比奈 優
総評・奨励賞授与	元吉 ひとみ看護部長



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

■ 診療部

内科

□ 誌上発表（論文・著作・寄稿）

- 堀川知香、永井庸次、小山 勇、伏見清秀、深田順一、岩淵勝好：「第68回日本病院学会 シンポジウム4 医療の質改善の方略」、日本病院会雑誌Vol.66 No.2 p.62-119、2019年2月
- 武市牧子：「1. 尋常性座瘡（にきび）」、チャート式皮膚疾患の漢方治療 東洋医学出版、p.1-10、2019年3月

□ 学会・研究会

- 綿貫 裕、岩崎泰正、石山由香、深田順一：「療養型医療機関における糖尿病患者の栄養管理」、第61回日本糖尿病学会年次学術総会、東京都、2018年5月25日

□ 講演（講習会を含む）

- 深田順一：「生活習慣の生理学と治療学」、平成30年度 仁生会教育委員会 集合教育（細木病院）、高知市、2018年7月4日

□ 座 長

- 深田順一：「シンポジウム4 医療の質改善の方略」、聖路加国際大学 堀川知香他、第68回日本病院学会、金沢市、2018年6月28日

■ 医療技術部

リハビリテーション課

□ 講演（講習会を含む）

- 門脇貴代：「脳とカラダを同時に刺激！！デュアルタスク（二重課題）で認知症予防！」、一宮コミュニティ計画推進市民会議、高知市、2019年1月22日
- 谷口桃子・貞光梨沙：「お口の機能と健康寿命」、サロン・ド・いろは、高知市、2018年12月23日

■ あうん高知

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

- 小松雅理：「成人看護Ⅰ 循環器疾患患者の看護」、外部講師、高知県医師会准看護学院、高知市、2018年6月7日～28日（うち4日間）
- 小松雅理：「トリアージタッグの取り扱い」、土佐神社避難所開設訓練、高知市、2019年1月27日

□ 座 長

- 小松雅理：「排泄」、第29回全国介護老人保健施設大会、さいたま市、2018年10月19日

細木病院

細木ユニテイ病院

三愛病院  
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

細木病院

依 頼 元 名	延べ人数
<b>看 護 部 (愛1病棟)</b>	
高知県医師会准看護学院 (2年生)	12
高知開成専門学校 看護学科 (1年生)	4
高知開成専門学校 看護学科 (2年生)	2

細木ユニ  
テイ病院

<b>(愛2病棟)</b>	
高知開成専門学校 (1年生)	4
高知開成専門学校 (2年生)	2
高知県医師会准看護学院 (2年生)	12

三愛病院  
あうん高知

<b>(愛3病棟)</b>	
高知県医師会准看護学院・成人老年看護実習 (2年生)	11
高知開成専門学校 看護学科・基礎看護学I (1年生)	1
高知開成専門学校 看護学科・基礎看護学II (1年生)	1
高知開成専門学校 看護学科・成人看護学 実習・慢性期 (2年生)	4
合 計	53

日高クリ  
ニック

<b>医療技術部 (栄養管理室)</b>	
高知学園短期大学 (2年生)	2
RKC調理製菓専門学校	2

<b>(リハビリテーション課 言語聴覚療法室)</b>	
朝日医療大学校 (1年生)	1
高知リハビリテーション学院 (4年生)	1

<b>(医療相談室)</b>	
高知県立大学 社会福祉学部 (3回生)	1
合 計	7

本  
部

<b>在 宅 部 (デイサービスいろは)</b>	
高知学園短期大学 看護学科 (3年生)	4

<b>(グループホームいろは丸)</b>	
高知大学医学部 医学科 (1年生)	12
高知県立大学 社会福祉学部 (3回生)	1
美作大学 社会福祉学部 (3回生)	1
合 計	18

アド  
レス・高  
知

<b>あうん高知 (入所)</b>	
高知大学 医学部 (1年生)	14
美作大学 生活科学部 (4年生)	1

<b>(通所リハビリテーション デイケア・ファイト)</b>	
高知大学 医学部1年生	14
美作大学 社会福祉学科 (2年生)	1
高知県立大学 社会福祉学科 (3年生)	2
介護労働安定センター	2
高知県立大学 社会福祉学部 実習I	3

合 計	37
-----	----

福  
寿  
園

三愛病院総合計	115
---------	-----

積  
善  
会